

新博物館の活動と運営 Vol.1

～ともに考え、活動し、成長する博物館に向けて～

(中 間 報 告)

平成 21 年 12 月

三重県生活・文化部

新博物館整備推進室

はじめに

昭和28年、東海地域で初の総合博物館として開館した三重県立博物館は、老朽化が進み、展示室を閉鎖するなど、博物館としての機能が果たせない状況になっています。

このような状況のもとで、新たな「文化と知的探求の拠点」として、三重の文化振興と、地域の文化力の向上に役立つような新県立博物館を整備するための検討に入りました。平成19年7月から「新県立博物館基本構想(平成20年3月)」、 「新県立博物館基本計画(平成20年12月)」、 「新県立博物館 事業実施方針(平成21年3月)」をまとめ、平成21年度には、設計段階に入り、いよいよ理念を具体的に実現する段階に至りました。

新県立博物館は、県民・利用者の皆さんと「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざしています。博物館の主役は、県民・利用者の皆さんです。この考え方を、博物館をつくる段階から実践していくため、現県立博物館で取り組んできた活動を発展的に新博物館に向けた活動に集約しつつ、新たな検討や試行を加えて、県民の皆さんとともに取り組んでいきたいと考えています。

そこで、これから開館までの約5年の間に、新博物館を具体的に構築していく過程を、「新博物館の活動と運営」として毎年まとめていくこととしました。

「新博物館の活動と運営」は、新博物館の活動と運営の構築のために行っているさまざまな検討や取組を、県民・利用者の皆さんに報告し、知っていただく機会とするとともに、一緒に考えていただくために、活用していきます。これから毎年 Vol.1(第1巻)～Vol.5(第5巻)まで、新博物館整備に向けた取組をまとめ、開館時には、整備過程で歩んできた道を記録として共有できるように積み重ねていきたいと考えています。そして、この経験を開館後のみんなで作る博物館の基本的なしくみとして発展させることができるようにしっかりと取り組んでいきます。

ぜひ、一人でも多くの方がご覧になり、新博物館をつくっていく過程に参加・参画していただくことにつながれば幸いです。

平成21年12月

三重県生活・文化部 新博物館整備推進室

目 次

	ページ
第1章 2009(平成21)年度の取組	1
事業実施方針の基本的な考え方	
1 事業の目標	
2 取組方針	
3 重点的取組テーマ	
テーマ別の取組	
1 各取組の位置づけ	
2 実施状況	
3 詳細報告 ~ 県民等への説明と意見集約の取組 ~	
第2章 2009(平成21)年度の検討内容から	22
博物館活動と設計	
1 「ともに考え、活動し、成長する博物館」における博物館活動を想定した建築・展示設計の考え方	
2 エリア別の考え方	
公文書館機能整備の考え方	
1 公文書館とは~ 公文書館の機能について ~	
2 新博物館における公文書館機能の一体化の考え方	
運営	
1 2009(平成21)年度の検討	
2 2010(平成22)年度以降の検討の進め方	
連携を進めるための主体別検討	
1 主体別ヒアリング・学校等へのアンケートの実施状況	
2 今後の取組方向	
第3章 2010(平成22)年度に向けて	30
1 2010(平成22)年度の位置づけ	
2 2010(平成22)年度の取組等	
3 取組項目とスケジュール	

第1章 2009（平成21）年度の取組

2009（平成21）年度の取組については、「新県立博物館基本計画（平成20年12月）（以下「基本計画」という。）に基づき作成された「新県立博物館事業実施方針」（平成21年3月）（以下「事業実施方針」という。）をもとに、展開してきました。

事業実施方針の基本的な考え方（事業実施方針より）

- 1 事業の目標 「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくり
- 2 取組方針
 - (1)開館前から協創・連携による活動を展開する
開館前から、県民・利用者との「協創」の視点と多様な主体との「連携」の視点に基づく活動を展開します。
 - (2)既存の活動を拡充・発展させる方向で展開する
現博物館が既に実施している活動を拡充・発展させ、新博物館の活動につなげます。
 - (3)重点的取組テーマを設定して活動を展開する
「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくりのために、重点的取組テーマとして下記の4項目を設定し、開館に向けた活動の中で積極的に展開します。
 - (4)ソフトの成果を施設づくりに生かす
事業実施方針に基づく検討・取組を施設づくり（設計・施工）に生かします。
- 3 重点的取組テーマ
 - 取組テーマ1 参画のしくみづくり
県民・利用者みなさんが、一人ひとりの状況に応じて博物館の活動や運営に関わることができるよう、多様な参画の機会を設けます。
 - 取組テーマ2 連携が進む環境づくり
県内外の博物館、大学等高等教育機関、学校など多様な主体との連携が進むために必要なしくみの整備を進めます。
 - 取組テーマ3 評価のしくみづくり
博物館の活動や運営の成果を県民・利用者をはじめ、博物館に関わる人がみんなで振り返り、確認することにより、次に生かし、活動や運営をより充実したものに高めていけるようなしくみを検討し、設けます。
 - 取組テーマ4 魅力的な博物館づくり
より多くの人々が興味を持って、来館し、リピーターとなるような魅力的な博物館とするための取組を進めます。

2009(平成 21)年度に実施した重点的取組テーマ別の実施状況と、その成果と課題について報告します。

■ テーマ別の取組

1 各取組の位置づけ

<取組テーマ1> 参画のしくみづくり

- 段階に応じた参加、参画のきっかけ、機会づくり
- ①博物館活動（調査研究、収集保存、活用発信）
- ②運営（博物館運営機関、評価に参画、ボランティアスタッフ、友の会等の支援組織）→主に取組テーマ4で実施

平成 21 年度の取組

- ・みんなで作る博物館会議 2009 →(1)
- ・ティーンズプロジェクト（こども会議） →(2)
- ・「新博物館の活動と運営 vol.1」のとりまとめ →(3)
- ・三重県立博物館サポートスタッフ活動 →(4)
- ・博物館きわめるプロジェクト（博物館を知るWSの開発） →(5)
- ・ミエソウの足跡化石調査 →(6)

<取組テーマ2> 連携が進む環境づくり

- 対象別の方針
- ①対象との対話
- ②連携事業の試行

平成 21 年度の取組

- ・県内博物館との連携事業 →(7)
- ・三重大学との連携事業 →(8)
- ・地域の団体との連携事業 →(9)
- ・学校との連携事業 →(10)
- ・「文化と知的探求の拠点」との連携事業 →(11)

<取組テーマ4> 魅力的な博物館づくり

- ソフト面の施設づくり・運営
- 広報・発信

平成 21 年度の取組

- ・建築・展示設計の検討 →(13)
- ・県民への説明と意見集約（アンケート調査等） →(14)
- ・伝えて広めるプロジェクト →(15)
- ・みんなで作る博物館会議 2009 →(1)
- ・ティーンズプロジェクト（こども会議） →(2)
- ・「新博物館の活動と運営 vol.1」のとりまとめ →(3)

<取組テーマ3> 評価のしくみづくり

- 評価のしくみづくり
- ①運営面での評価
- ②展示等事業評価

平成 21 年度の取組

- ・移動展示(展示内容の構築) →(12)
- ・みんなで作る博物館会議 2009 →(1)
- ・「新博物館の活動と運営 vol.1」のとりまとめ →(3)

2 実施状況

(1) みんなでつくる博物館会議 2009

新博物館に向けた取組の進捗状況について報告し、県民の皆さんとオープンに意見交換をする場として開催します。

年間を通じ、さまざまな機会を活用して意見交換を行った成果を集約しながら、「新博物館の活動と運営 VOL1」について、県民の皆さんとともに考える場とします。

この「みんなでつくる博物館会議」は、開館後、県民・利用者の皆さんによる博物館運営への参画のしくみの一つとなるものです。開館までの数年間においては、新博物館づくりへの県民の皆さんの参画の場であると同時に、試行錯誤を重ねながら、この会議のかたちについて見いだしていく場として、毎年開催していきます。

「みんなでつくる博物館会議 2009」開催概要

日時 平成22年1月30日(土) 13:30～16:00

場所 三重県総合文化センター セミナー室A

内容(案)

オープニング

三重の博物館ストーリー

見えてきたぞ新博物館

証言!博物館づくりの道

いいもんつくろ!こうしよ、ああしよ

エンディング

同時開催 パネル展「新博物館への道(仮称)」ほか

(2)ティーンズプロジェクト(こども会議)(文化庁支援事業)

開館後のこどもたちの参画の場をどのように設けていくのか、を課題としながら、本年度については、試行的にこどもたちの思いを新博物館に反映していくため、ティーンズプロジェクト(こども会議)を開催しました。

具体的には、文化庁支援事業のプログラムの一つとして、現場研修やワークショップなどを通じて、「博物館とは？」ということを共有しながら、こどもたちの新博物館への思いをかたちにしていくような場にしていきました。

県内各地から、小学校5年生～中学校2年生までの18名のこどもたちが集まりました。また、このプロジェクトのリーダー役として、嵯峨創平さん(NPO 法人環境文化のための対話研究所代表)、応援団として、布谷知夫さん(滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員)、染川香澄さん(ハズ・オン プランニング代表)、中西紹一さん(有限会社プラス・サーキュレーション・ジャパン代表)が、参画いただきました。

- 8 / 8 第1回 オリエンテーション
(わたしたちにとって博物館って?)
- 8 / 22 第2回 滋賀県立琵琶湖博物館見学ツアー
(博物館ってどんなところ?表も裏も見てみよう!)
- 9 / 19 第3回 兵庫県立考古博物館見学ツアー
(博物館ってどんなところ?調べてみよう!)
- 10 / 3 第4回 ティーンズ・ワークショップ
(行ってみたい博物館を考えよう!)
- 10 / 31 第5回 ティーンズ・ワークショップ
(どんな博物館が欲しいか考えてみよう!その1)
- 11 / 7 第6回 ティーンズ・ワークショップ
(どんな博物館が欲しいか考えてみよう!その2)
- 11 / 28 第7回 こども会議
(10代と大人が博物館をめぐって対話する「こども会議」)

文化庁支援事業とは:「平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業」の略。「博物館きわめるプロジェクト」、「ティーンズプロジェクト」、「伝えて広めるプロジェクト」の3つのプロジェクトで構成する事業を三重県立博物館が申請し、採択されたもの。



ティーンズプロジェクトの様子

(3) 「新博物館の活動と運営 Vol.1」のとりまとめ

新博物館に向けた検討や取組の進捗状況について報告し、県民の皆さんと共有し、意見交換をするための道具（ツール）として、「新博物館の活動と運営 vol.1」をとりまとめます。

(4)三重県立博物館サポートスタッフ活動

現県立博物館では、平成18年度からサポートスタッフの募集を始め、新県立博物館へ向けた先行的取組として活動を行なっています。

現在は小学生から80才代の方まで約170名の皆さんがサポートスタッフ活動に参加され、毎年数十名ずつ仲間が増えています。活動では自ら学ぶ楽しさや知的好奇心を育みながら、世代や興味関心を超えた交流や、資料を通じた地域の再発見などによって協創活動の場づくりを進めています。

主な活動内容としては三重の自然や歴史・文化を扱う博物館の活動に関する「研修受講」、県内各地で開催する移動展示や博物館教室・フィールドワークなどの博物館事業への「スタッフ協力」、各自の興味関心に沿った分野別の「グループ活動」(サポスタ情報局・おもしろ博物館づくり・化石鉱物・生きもの・染色・民俗・歴史の7グループ)などを通して、文化と知的探究の拠点づくりを皆さんとともに「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざし活動しています。



博物館資料の取扱研修



移動展示の設営協力



グループ活動(化石鉱物)



活動成果発表会

(5) 博物館きわめるプロジェクト

(地域と連携した博物館を知るWSプログラムの開発) (文化庁支援事業)

「博物館ってどんなところ？」をメインテーマに、地域・県内博物館と連携して、「モノってなあに？」をテーマに、こどもを対象とした3種類のワークショップを開催し、その成果をもとに、博物館を知るワークショップ(WS)プログラムの開発に役立てるために実施しました。

このプロジェクトの実施にあたっては、松阪市文化財センター(松阪市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)、芭蕉翁記念館(伊賀市)、桑名市博物館(桑名市)を共催し、連携して取り組みました。

また、プロジェクトの実施にあたっては、ワークショップの前日に、講師とスタッフ、県博サポートスタッフ、博物館及び関係機関職員などが参加して、「企画交流ラボ」と称し、講師による事前の体験研修を行いました。これにより、ワークショップの内容や意図などがわかり、参加者どうしの交流の機会ともなりました。ワークショップに参加したこどもは、のべ44人、企画交流ラボには、のべ54人の大人が参加しました。

9/26 第1回 「本物に出会ったドキドキを誰かに伝えよう」

講師：竹内伸子さん(絵手紙作家)

11/1 第2回 「いざ子ども 石の上にも3時間」

講師：塩瀬隆之さん(京都大学総合博物館准教授)

11/21 第3回 「物の語りを聞く-お茶箱プロジェクト」

講師：佐藤優香さん(国立歴史民俗博物館助教)



「本物に出会ったドキドキを誰かに伝えよう」

日時：平成21年9月26日(土)

(企画交流ラボ：9月25日(金))

場所：松阪市文化財センター(はにわ館)

「いざ子ども 石の上にも3時間」

日時：平成21年11月1日(日)

(企画交流ラボ：10月30日(金))

場所：史跡旧崇廣堂(伊賀市)

「物の語りを聞く-お茶箱プロジェクト」

日時：平成21年11月21日(土)

(企画交流ラボ：11月20日(金))

場所：六華苑(桑名市)

(6)ミエゾウの足跡化石調査

三重県立博物館では、ミエゾウをはじめとするゾウ化石の研究の基礎資料を得るため、本年4月30日から5月6日の期間に、鈴鹿川水系の支流である御幣川（おんべがわ）流域（鈴鹿市伊船町）において、ミエゾウなどの足跡化石の調査を行いました。その後、追加調査も実施しています。

調査の実施にあたっては、新博物館がめざす協創と連携による先駆的な取組として、県内外の学術団体や研究者（滋賀県足跡化石研究会、名古屋地学会ほか）、博物館サポートスタッフ、鈴鹿市、地元自治会など、多様な主体の協力を得て行いました。また、学校教育との連携の一環として、地元の小学生（鈴鹿市立深伊沢・庄内・椿小学校の6年生）にも化石発掘の体験をしてもらい、地域に対する興味関心を高めるきっかけとしました。

さらに、速報展「やっぱりゾウは歩いていた 御幣川ミエゾウ足跡化石調査より」を県民ホールにて、5月25日から6月12日まで開催しました。その後、地元鈴鹿市役所でも、移動展示「むかし、鈴鹿にゾウがいた～御幣川ゾウ足跡化石調査から～」を9月1日から10日まで行いました。

調査の成果は、調査報告書としてまとめ、刊行します。

（調査を終えて）

現地調査を行った御幣川流域の地層は、ちょうどミエゾウからアケボノゾウへと進化していったと考えられる時代の地層です。このため、調査で得られた成果を詳しく検討するとともに、さらに広域的な調査を行うことは、まだ十分に解明されていない、ミエゾウからアケボノゾウへの進化過程を明らかにし、また、ゾウがいた頃の三重の古環境を考える上で大変意義があり、引き続き調査を進めていく予定です。

御幣川ゾウ足跡化石調査（鈴鹿市伊船町）



（現地説明会）



（地元小学生による化石発掘体験）



速報展

「やっぱりゾウは歩いていた 御幣川
ミエゾウ足跡化石調査より」於：県庁

(7) 県内博物館との連携事業

(三重県博物館協会 連携ワーキング)

県内博物館 50 館が参加する「三重県博物館協会」に、今後の連携に向けた検討のためのワーキングを設けます。

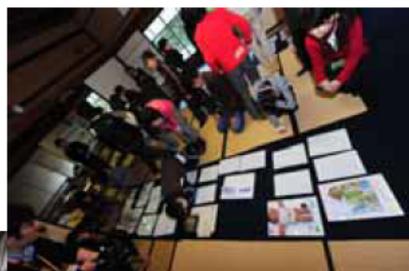
今後、これまで三重県博物館協会で行ってきたことや、平成 20 年度に実施したアンケート調査を参考にしながら、行事や展示などの共同開催、合同広報活動、資料情報などの共有化、合同研修会など、可能なものから具体的に検討を進めていきます。最終的に、連携が、利用者にとってメリットになり、県内博物館にとっても基盤強化につながるよう、持続的に、県内博物館とともに取組を進めていくことをめざしています。

(博物館きわめるプロジェクトでの連携)

また、「(5) 博物館きわめるプロジェクト(地域と連携した博物館を知るWSプログラムの開発)」においては、松阪市、伊賀市、桑名市の 3 か所で、松阪市文化財センター(はにわ館)、芭蕉翁記念館、伊賀流忍者博物館、桑名市博物館の 4 館と共催で実施しました。特に、今回のプロジェクトにおいては、前日に企画交流ラボとして、関係者による事前体験・研修を行いました。このことにより、連携館・新博物館とが人的なつながりをもてたほか、学芸員自身がワークショップを実際に体験してみることの重要性(参加者の視点に立てる)、小学校高学年のこどもとの接し方などがよくわかった、などの成果や意見が連携館から出されました。



9/26 松阪会場
連携館：松阪市文化財センター(はにわ館)
於：同館



11/21 桑名会場
連携館：桑名市博物館
於：六華苑



11/1 伊賀会場
連携館：芭蕉翁記念館、
伊賀流忍者博物館
於：史跡旧崇廣堂

(8)三重大学との連携事業

本年3月に三重大学との協定を締結し、今後の連携のあり方などについて、三重大学とともに、連携協議を行っています。

本年度は、三重大学との共催で、大学、地域、博物館、文化力をキーワードに3回のシンポジウムを開催しました。

これらのシンポジウムにおいて、博学連携による文化力形成と地域の活性化、今後の大学と連携した取組の方向などの具体策を議論しました。また、三重大学との連携を他の県内大学にも広げ、さらに、県外の大学や学術団体等との交流、ネットワークづくりにもつなげていくこととしています。

10/29 第1回「文化力・地域の活性化と大学の役割」

11/15 第2回「博物館と大学の連携により進める人づくり」

12/5 第3回「文化力と地域の活性化を拓く博学連携（博物館と大学との連携）」

また、現県立博物館は、教育学部・工学部と連携した取組として「青少年のための科学の祭典」へ出展し、多くの子どもたちが、科学や自然に興味を持つきっかけづくりを継続して行っています。11月28日、29日に開催され、「昆虫切り紙体験」には、829人の参加者がありました。



第1回シンポジウム



第2回シンポジウム



「青少年のための科学の祭典」から

(9)地域の団体との連携事業

地域の団体との連携事業に取り組む中で、資料の収集保全、調査研究等の博物館活動とともに進めるための人的なネットワークづくりを行うこととしています。

(自然系団体との協創)

本年3月には、県内の自然系の団体が集まり、その活動や地域の自然を紹介する「しぜん文化祭」の開催に協力するとともに、当室が主催して新博物館に関するシンポジウムを同時開催しました。本年度も引き続き、開催が予定されており、企画段階から協力・参画する予定です。

平成20年度	開催場所：津市河芸町
	開催期間：平成21年3月21日～22日
	参加団体：36団体
平成21年度	開催場所：菰野町
	開催期間：平成22年3月20日～21日
	(予定)

(人文系団体との協創)

人文系の団体などと連携した取組としては、熊野古文書同好会、三重大学、県立熊野古道センターが継続的に実施している地域資料についての調査に協力し、合同調査を行いました。

この成果を、平成22年1月30日から熊野市で開催する移動展示に活かしていくとともに、調査報告会を共同で行うこととしています。



しぜん文化祭 in みえ(平成20年度) 連携による古文書調査のようす(熊野市内)

(10)学校との連携事業

(「学校教育における博物館等の活用と連携に関する調査」)

県内の小・中・高等学校及び市町教育委員会に対して、「学校教育における博物館等の活用と連携に関する調査」を実施しています。(1月まとめ)

調査結果の概要については、資料5に掲載予定

(「みえの「文化力」学校展開プロジェクト」)

三重県教育委員会が実施している「みえの『文化力』学校展開プロジェクト」では、学校への文化力の浸透を図るため、博物館等の文化施設と学校の連携方策について検討をはじめました。

11月までに4回の会議が開催され、文化施設のもつ人やモノを生かした体験の実施について、学校現場の状況を前提にしながら、その課題や具体的実施方策について検討しています。この検討において、新県立博物館も含めた議論を行うとともに、その結果を今後の連携のあり方にも反映させる予定です。

(学校での出前授業)

現県立博物館では、学校からの依頼に応じて、昆虫切り絵と昆虫観察・化石レプリカ作りなどを行っています。本年度は、幼稚園1件、小学校8件について、実施しました。

(小中学校教員の研修協力)

小中学校の教職員のグループに対して、御幣川足跡化石現地学習会・化石採集実技研修会を行いました。

(11) 「文化と知的探求の拠点」との連携事業

「三重の文化振興方針」(平成20年3月)では、県内の「文化と知的探求の拠点」(県立・市町立・私立の文化施設)と「身近な拠点」(市町の公民館、児童館等の施設など)が、各々の特徴を生かし、役割を果たしながら連携して、三重県全体として文化振興を図っていくことを重点施策としています。

現県立博物館においても、この考え方のもとで行うさまざまな取組に参画し、多様な機能をもった生涯学習センターや文化会館、図書館、他の博物館、公民館などと連携することで、より充実した博物館活動の創出につなげてきました。

(県総合文化センターとの連携)

三重県総合文化センターが毎年実施する子ども対象のM祭では、本年度も8月9日に生きもの切り紙を実施し、県立博物館のコーナーだけで、1,114人の参加がありました。

(公民館や児童館などとの連携)

子どもから大人までの幅広い年齢層を対象とする生涯学習機関に対して、昆虫講座・観察会や昆虫切り紙教室や化石レプリカづくりなどの協力を行っています。本年度は公民館3か所、児童館等4か所に出向いて実施しました。

(次世代の文化体験活動推進事業)

県生涯学習センターが窓口となり、県の文化・生涯学習施設が連携して、未来の文化を担う子どもたちに、ホンモノの文化・芸術と「出会う」機会を提供するこの事業へは、博物館所蔵の資料や技術などを活用して学校での授業や観察会などを行うため、職員を派遣しました。

(12)移動展示(展示内容の構築)

現県立博物館が平成18年度から県内各地で開催してきた移動展示では、所蔵資料を広く県民に公開するとともに、本年度からは、特に、新博物館がめざす県民との協創、あるいは、新博物館での展示につなげるための、実践的な試行を行ってきました。

また、各移動展示会場に新博物館のPRコーナーを設置して、新博物館について知ってもらう場とし、来場者に対してアンケートを行いました。

こうした試行による成果を今後の展示内容の構築につなげていきます。

(伊賀会場)

期間 平成21年7月11日～8月9日

場所 上野歴史民俗資料館

テーマ 「伊賀のとおきおきの自然～秘蔵の国の魅力～」

入場者数 736名

関連行事 サギソウ観察会と昆虫切り絵教室(8月7日三重県上野森林公園)

新博物館の盆地(伊賀)のくらしを指向する試行的な展示内容をめざしました。

(鈴鹿会場)

期間 平成21年8月27日～9月13日

場所 鈴鹿市立図書館

テーマ 「鈴鹿の自然、再発見! 山・里・海の生きものたんけん隊」

入場者数 1,479名

関連行事 展示解説会(8月29日、30日とも9時半・11時 計2回)

地元の鈴鹿市自然環境調査委員などに、展示標本について協力をいただきました。

(熊野会場)

期間 平成22年1月30日～2月14日

場所 熊野市文化交流センター

テーマ 「巡礼の道～伊勢参宮と熊野詣～」

関連行事 「納札が語る熊野古道の旅」調査報告会(2月6日熊野市文化交流センター)

熊野古文書同好会などと共同調査した成果も、移動展示で展示します。



伊賀会場



鈴鹿会場

(13) 建築・展示設計の検討

基本計画で検討してきた博物館活動や運営が展開できるよう、建築や展示の設計の検討を行いました。

(建築設計の検討)

建築設計については、毎週金曜日に定例会を開催するなど、学識経験者を加え、設計者と学芸員・建築技師等県職員による検討を行いました。

定例検討会議(11月末までに、約40回)、ほかにテーマ別検討会などを開催

(展示設計の検討)

展示設計については、毎週木曜日に定例会を開催するなど、学識経験者を加え、設計者と学芸員・建築技師等県職員による検討を行いました。

定例検討会議(11月までに、約30回)、ほかにテーマ別検討会などを開催

(基本計画に基づく博物館活動や運営の具体化としての設計)

以上の設計においては、基本計画をもとにした、博物館活動や運営についての具体的ありようを議論しながら、施設の設計とともに、展示設計の対象である、交流創造エリアや展示エリアの各室の機能やデザインなどを検討しました。



500分の1建築模型

(14) 県民等への説明と意見集約（アンケート調査等）

11月末まで、のべ51回（のべ約7,600人）のさまざまなイベントや会議などの機会を活用して、新博物館についての説明と意見交換を行いました。説明等の時間がとれない場合は、パンフレット等を配布し、アンケートにより意見等を集約しました。

（アンケートについて）

イベントや会議などでは、さまざまな目的で集まった人一人ひとりに意見をお聞きすることができないため、可能な限りアンケートの記入をお願いしました。

この結果、のべ1,361人から回答を得ることができました。このアンケートは、県民の皆さんの意見をできるだけ多く聞くために実施しました。このため、自由記述の部分も重視しました。また、集計にあたっては、会場ごとに来場者の特徴や偏りが見られたことから、会場別に集計・結果分析を行いました。

結果的に、会場別に集計すると、全体集計では、傾向がよくわからなかった各々の実施地域の特徴や、共通部分を見いだせることがわかりました。

このアンケートの成果については、次のとおり考えています。

県民一人ひとりの意見を聞く

自由記述の一つひとつを、一人ひとりのアイデアや思いのあらわれとして尊重し、検討に役立てることができました。

集計結果についても、会場ごとの特徴をみたり、共通性を分析したりすることで、今後の検討に役立てることができました。

文化庁支援事業として実施する博物館の基盤整備のための取組です。

(5)の博物館きわめるプロジェクト及び(2)のティーンズプロジェクトの成果をもとに、博物館のおもしろさをより多くの人に広げていくために、関係者で企画内容を検討しながら、普及用のパンフレットの作成と活用、県内一円でケーブルテレビの記録番組放映を行います。

(プロジェクトの主な内容)

普及開発会議の開催(年間4回)

開催した2つのプロジェクト(博物館きわめるプロジェクト・ティーンズプロジェクト)について、どのようにその成果を、多くの人に伝えて、博物館についての関心をもち、魅力を感じてもらえるかについて検討するための会議を開催します。

会議には、デザイナー、ケーブルテレビ関係者、博物館きわめるプロジェクト連携館、県関係者が一緒に、普及広報のため、企画内容を検討します。

第1回 平成21年7月29日

第2～4回 博物館きわめるプロジェクトとティーンズプロジェクトが終了した後、12月～2月の間に開催

成果

博物館きわめるプロジェクトの報告書

こどもにも親しまれるような内容としながら、プロジェクトで実施したワークショップの意図や内容が伝わり、読んだ人が自分もワークショップに参加してみたくなり、博物館に魅力も感じてもらえるようなものとする。

ティーンズプロジェクト特別番組の作成と放映

ティーンズプロジェクトのこどもたちの活動をとおして、こどもが参加してみたくなる博物館像が伝わり、大人も含めて、新博物館への期待が高まるものとする。

(プロジェクトの特徴)

デザイナーやケーブルテレビ関係者に委託するだけでなく、企画内容や主催者の意図や思いを共有することで、成果物の配布先や使い方まで意識した広報物をつくること、さらには、プロのノウハウや考え方を学ぶことを意図して、プロジェクトを実施することとしました。

3 詳細報告～県民等への説明と意見集約の取組～

2の実施状況のうち、「(14)県民等への説明と意見集約（アンケート調査等）」については、みんなでつくる博物館の基本となる取組であることから、詳細に報告します。

(1)実施状況

① 説明、意見交換、アンケートの実施

6月から11月末までに、のべ51回（のべ約7,600人）のさまざまなイベントや会議などの機会を活用して、新博物館についての説明と意見交換を行いました。説明等の時間がとれない場合は、パンフレット等を配布し、アンケートにより意見等を集約しました。

（主な実施場所）

- ・移動展示（伊賀、鈴鹿）会場
- ・学校出前授業、フィールドワーク、ワークショップ、三重県博物館協会総会など（博物館行事）
- ・M祭、市町主催のシンポジウムなど（イベント会場）
- ・全国高校総合文化祭、世界新体操選手権大会など（県関係行事）
- ・市町等教育長会議、県PTA連合会会長等研修会など（県関係機関等の会議）

アンケートの実施状況 ※集計結果については、資料1参照

	伊賀移動展示	鈴鹿移動展示	M祭	その他
回収数	263	672	290	136

② 全県民を対象とした広聴広報の実施

9月（概略設計のご案内）、10月（県政一口提案）の県政だよりで、県内約71万世帯に対して、概略設計のご案内とそれに対する意見等の募集を行いました。

県政一口提案実施状況 ※集計結果については、資料2参照

実施期間：平成21年10月号の配布日から11月10日まで
提出意見数：103件（実施期間後の提出数3件）

賛成	反対	その他	計
77件	14件	12件	103件
74.8%	13.6%	11.6%	100.0%

(予定地周辺)住民説明会の実施

津市内の新博物館建設予定地周辺の4連合自治会(津西地区、北立誠地区、南立誠地区、一身田地区)(地域内居住:約15,000世帯、約38,000人)については説明会を開催するとともに、概略設計(概要版)パンフレットの各戸回覧を実施しました。

	第1回(4/11)	第2回(9/12)
参加人数	46人	43人

ユニバーサルデザイン(UD)の博物館づくりのための意見交換

「三重県障害者社会参加推進協議会」及び「ユニバーサルデザインアドバイザー団体」との意見交換を実施しました。

三重県障害者社会参加推進協議会との意見交換会

「三重県障害者社会参加推進協議会」との意見交換については、7月28日に、当事者団体など20構成団体中16団体の参加を得て、さまざまな障がい者の視点からの意見を聞くことができました。また、9月には、第2回を開催して、第1回に出された意見への対応を報告し、意見交換を行いました。

これらの意見交換により、施設づくりや活動・運営へ多様な示唆を得ることができ、設計に反映するとともに、今後も意見交換の機会を設けることとしています。

ユニバーサルデザインアドバイザー団体との意見交換会

UDの視点から地域において活動をされている団体の皆さんに、多様なご意見、提案をいただき、意見交換を行いました。

会議名	第1回(参加団体)	第2回(参加団体)
三重県障害者社会参加推進協議会	7/28(16団体)	9/10(14団体)
ユニバーサルデザインアドバイザー団体	8/19(10団体)	-

関係機関等の会議

- ・四日市地域における知事と市町長による「トップ会議(膝づめミーティング)」(8月26日)において、市町側からの提案により、「県と市町の博物館の連携について」をテーマに、議論しました。議論においては、新県立博物館と市町の博物館や資料館との連携について積極的に意見交換がなされました。
- ・津市デザイン委員会(7月23日)において説明

- ・三重県景観審議会（9月15日）において説明

ティーンズプロジェクト「こども会議」からの提案

あったらいいなこんな博物館

「友達ができる、わくわくどきどきする博物館」をテーマに、夢いっぱい
の理想の博物館像を提案しました。

- ・提案1 マンモス狩りができる博物館

みんなで、マンモス狩りを体験できるバーチャル展示博物館

- ・提案2 展示をたべちゃう博物館

展示物を食べることもできる博物館

- ・提案3 展示を買える博物館

クイズに挑戦して正解すると展示物を買える博物館

- ・提案4 迷った～見つけた、の場面で友達ができる博物館

クイズラリーと一緒に参加した見知らぬ人どうしが、博物館で資料
を見学しながら、答えを探すうちに、最終的に仲良くなり、友達にな
るような場面が展開される博物館

キーワードは、「探検」、「異年齢」、「交流 友達」、「体験」、「クイズ」、
「食」。キーワードをヒントに、こどもたちの思いにそって、実際の博
物館で取り入れ、実現できるように検討を進めていきます。

参加したこどもの発言、意見（ワークショップ、アンケートなど）

現在、アンケートを実施中のため、最終報告で記述

みんなでつくる博物館会議

最終報告で記述

その他

上記のほか、電話やメールなどで、担当室へ直接寄せられる意見もあり
ます。

(2) 意見への対応

(1)実施状況で得られた意見は、上記の ~ ごとに、集約しています。

個々の意見は、多様で、個別に回答することは、一部（県政一口提案、シンポジウム等）を除いて行っていませんが、同じ趣旨の意見について、下記のとおり主要な意見項目として整理し、今後できる限り意見や提案を取り入れていくように努力していきます。

なお、いただいた意見のうち、まず、建築設計など、既に反映した意見については、資料3にまとめました。

(主な意見項目)

	項 目
建築	施設のデザイン、構成、間取り等に関する事
展示	展示内容に関する事 展示方法に関する事 展示運営に関する事
博物館活動	博物館活動全般に関する事 調査研究活動に関する事 収集保存活動に関する事 資料閲覧等に関する事 催し、プログラムに関する事
公文書機能	公文書館機能の整備に関する事
連携	連携に関する事
運営広報	運営全般に関する事 運営への参画に関する事 広報・宣伝に関する事
その他	その他博物館が提供するサービスに関する事 交通アクセス・動線等に関する事 ユニバーサルデザインに関する事
遠隔地	遠隔地の県民へのサービス、アウトリーチに関する事

第2章 2009(平成21)年度の検討内容から

第1章で報告した2009(平成21)年度に検討して取り組んだことの中で、特に、整理し、明確にできたことについて、県民の皆さんとともに、今後意見交換等を行っていくため、次のとおり報告します。

博物館活動と設計

新博物館の建築及び展示設計にあたっては、「新県立博物館基本計画」の内容に基づき、「調査研究」、「収集保存」、「活用発信」の3つの活動の具体的なあり方を検討しながら、進めてきました。

検討した設計の際に基本とした、より具体的な博物館活動のあり方については、最終報告で報告します。

1 「ともに考え、活動し、成長する博物館」における博物館活動を想定した建築・展示設計の考え方

建築設計においては2月、展示設計においては6月に、それぞれ最終案の報告を行うこととしており、現在検討を進めているところです。

今後、「新博物館の活動と運営 vol.1」では、最終報告において、「ともに考え、活動し、成長する博物館」にふさわしい博物館活動をどのように想定し、施設や展示の設計に反映してきたかについて記述します。中間報告については、そのあらましを2で記述します。

展示設計について

通常、展示設計は、いわゆる常設展示室についてのみ行いますが、新博物館においては、常設の基本展示のほか、その他の展示室、交流創造エリア、エントランス、飲食・休憩スペースについて、基本計画にそった設計を行なっています。

展示設計の範囲を広くとらえた理由は、主に、県民等の博物館活動が展開されるこれらの場所を一体的、総合的に考えていこうとする姿勢に基づくものです。

2 エリア別の考え方

(1)三重の資産を保存継承する収蔵及び調査研究エリア

新博物館においては、収蔵エリア及び調査研究エリアは、利用者の皆さんには、普段直接には、見えない場所ですが、博物館活動の根幹をなす部分です。新博物館が、県民・利用者の皆さんに充実した博物館活動を提供するための基本的な役割を果たすエリアです。

収蔵エリアの機能と構成

三重の自然と歴史・文化の資産である博物館の資料を保存する収蔵エリアは、現県立博物館が所蔵する約28万点の資料と、文化振興室県史

編さんグループが管理する約14万点の資料を収蔵するため、全体として、新博物館の延べ面積の概ね3分の1の面積を占めています。安定した収蔵環境を保つため、収蔵庫を1階に配置するとともに、人文系（歴史的公文書資料を含む。）と自然系の資料の種類別に収蔵庫を設け、各資料に適した環境のもとで、収蔵できるように配慮しています。

また、収蔵エリアは、2階までを吹き抜けにする形で、収蔵庫の天井高を高く設定することで、より多くの資料を収蔵できるように設計されています。収蔵エリアの収蔵環境の考え方、収蔵庫の構成については、最終報告で記述します。

調査研究エリアの機能と構成

調査研究エリアについては、収蔵エリアと隣接し、資料として受け入れるための作業を行う諸室(標本製作室、人文資料整理室など)をはじめ、資料について整理したり、調べたり、保存のために必要な分析や処理を施す諸室(化学分析室、資料保存処理室など)を、自然系、人文系・公文書館系の作業にあわせて、設計しています。

(2)活用発信活動を支える交流創造エリア

交流創造エリアの構成室の機能と役割について

新博物館の最も大きな特徴である交流創造エリアは、主に、県民・利用者の皆さんが、博物館活動を展開するための場所です。

交流創造エリアには、県民・利用者の皆さんが、自由に学び・交流するオープンなエリアとして学習交流スペースを設けるとともに、総合的に博物館の資料について理解を深めたり、調べものに役立てたりする「三重の実物図鑑ルーム」、こどもたちが、「遊ぶ・楽しむ」を通して、博物館の楽しさを知ることができる「こども体験展示室」のほか、「実験実習室」、「県民活動室」などの諸室を備えています。

なかでも、「県民活動室」は、県民・利用者の皆さんが、新博物館を舞台に主体的に博物館活動を行うために活用できる場所で、ミーティングやワークショップなどの利用を想定しています。

新県立博物館における資料閲覧とレファレンス

新博物館の特徴の一つとして、歴史的公文書を含めた豊富な資料群について、誰もが調べたい資料を、資料保存の配慮を前提とした所定の手続きにより、閲覧できることがあります。

今後資料閲覧の範囲や手続きなどについての詳細を検討していきますが、レファレンス(相談業務)と連動した資料閲覧の具体的なイメージについて、別紙「資料閲覧室の利用イメージ」のとおり整理をしました。

多彩な交流が生まれる博物館の中核をなす交流創造エリア

交流創造エリアは、様々な役割を持った部屋やスペースが機能することで、県民・利用者と館、県民・利用者相互の対話や交流が活発に展開され、三重の誇りや新たな創造につなげ、発見する場となります。

研修・ガイダンスルーム

講座や研修会、団体・学校向けのガイダンスを行うための部屋

こども体験展示室

こどもたちが博物館を好きになるきっかけとなる部屋

三重の実物図鑑ルーム

三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を実物図鑑的に展示する部屋

実験実習室

さまざまなワークショップや実験・実習型の講座を開催するための部屋

学習交流スペース

県民・利用者の学習や研究、グループ・団体等の活動が行われることでさまざまな交流が生まれる場所

レファレンスカウンター

館内の各種案内をはじめ、三重の自然と歴史・文化に関する問い合わせや相談など、県民・利用者の活動をサポートする窓口

書庫

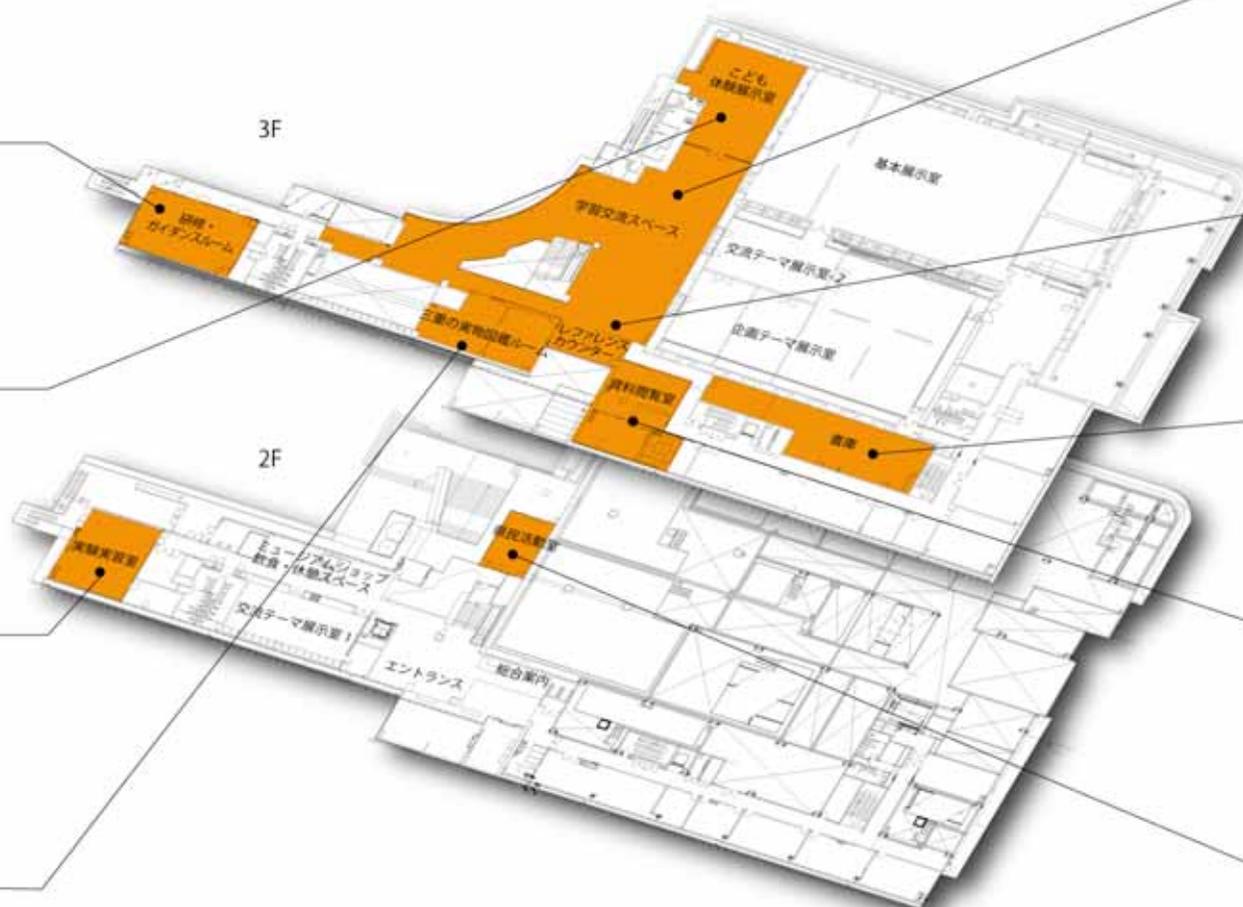
県民・利用者が閲覧利用できる約8万冊の書籍を収蔵する部屋

資料閲覧室

調査や研究のために収蔵資料を閲覧するための部屋

県民活動室

県民・利用者、団体などが博物館活動に参加・参画するための部屋



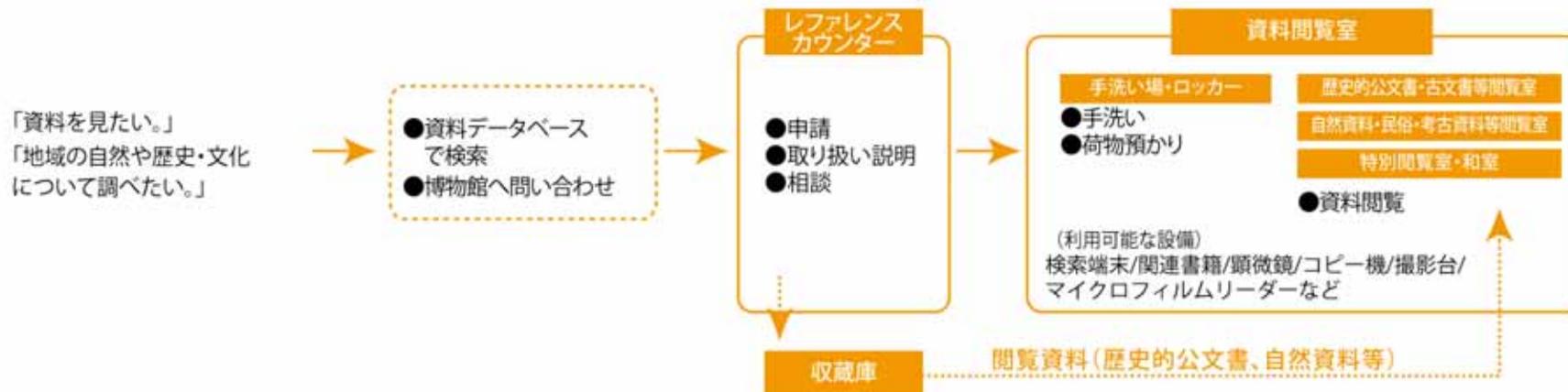
資料閲覧室の利用イメージ

博物館で所蔵する資料については、資料閲覧室で、資料保存への配慮を前提とした所定の手続きにより、閲覧、研究活動やさまざまな情報収集に利用することができます。閲覧にあたっては、資料への影響を考慮し、資料の種別や性格によって閲覧室を区分します。



■資料閲覧活用フロー

23-別紙



■資料閲覧室の特徴

歴史的公文書・古文書等閲覧室



地誌提要材料編

三重県庁の歴史的公文書(選別公文書と明治期県庁文書・絵図など)、古文書や冊子・版本などの文献史料、版画や絵巻などの絵画資料など、主に紙媒体の資料を閲覧することができる。



伊藤又五郎家文書



熊野本地絵巻

自然資料・民俗・考古資料等閲覧室



ノコギリシダ



タガメ



須恵器 提瓶

化石・鉱物などの地学標本資料、動・植物の標本資料などの自然系資料、民俗・考古・陶磁器などの人文系の器物資料を閲覧できる。

特別閲覧室・和室



本居宣長像

軸物や屏風・大型絵図など、机上で扱うことが困難な資料、特別な配慮が必要な資料の閲覧、団体や行政機関等の特別な閲覧に使用する。

(3)自分とつながる、展示活動に参加できる展示エリア

さまざまな展示室の構成

展示室は、さまざまな展示を可能にする柔軟性をもった（フレキシブルな）空間とし、展示内容や規模に応じて、大小さまざまな展示空間をつくりだすことができるように工夫されています。

展示室には、常設の「基本展示室」のほか、テーマに応じて展開する「企画テーマ展示室」、「交流テーマ展示室1・2」があります。「企画テーマ展示室」と「交流テーマ展示室2」は隣接しており、全体を一つの会場として使うこともできますし、「企画テーマ展示室」を複数の部屋に区切って使うこともできるように設計しています。

このようにすることで、恐竜展や国宝展といった大規模な全国巡回展、他館と連携するような共同企画展、自主企画展、基本展示と連動・補完するようなトピック展示、県民の皆さんや他機関との交流展示など、多彩な展示活動を展開することができます。

とりわけ、新博物館の特徴としているのが、2階エントランス付近に設ける「交流テーマ展示室1」です。この展示室では、県民の皆さんが主体的に、展示活動ができるよう、他の資料環境に影響を与えない範囲で、より柔軟な使い方（例えば、水槽の生き物の展示など）が行えるよう計画しています。

展示の考え方

基本展示は、訪れた人に、三重とはどのような地域で、どのように魅力的かということ、総合的に理解できるような展示とします。多様な三重の自然のすがたや人・モノ・文化の交流を紹介し、三重の多様性やそれらが持つ力について考えるきっかけとなるような展示とします。

企画テーマ展示室や交流テーマ展示室は、テーマに応じて多様な展開を想定しています。展開にあたっては、県民・利用者の皆さんや他機関との連携により、三重の自然と歴史・文化をテーマにしたものだけでなく、先端的・現代的なテーマ、身近なテーマも含めて、幅広く展開していくこととしています。

(4)緑の環境を生かすミュージアムフィールド

交流の広場

新博物館では、建物の南東側に面して草地の交流ひろばを設け、野外での学習活動や、イベントなどができるようにします。

また、畑地などを設け、実習などに役立てます。

里山林の活用

交流の広場の東側に隣接して広がる里山林を活用した博物館活動の

展開についても計画しています。

里山林では、多様なフィールドワークを行うとともに、観察ルートを設けて、県民が身近な自然に親しむ、憩いの場になるようにします。

公文書館機能整備の考え方

新博物館の大きな特徴の一つに公文書館機能の一体化があります。このような取組は、全国的に珍しいものであり、本年度は、まず、公文書館を併設するのではなく、公文書館機能を一体化するとはどのようなことなのかを検討し、考え方をまとめました。

1 公文書館とは - 公文書館の機能について -

(1) 公文書館とは

公文書館とは、公文書館法に基づき、歴史的・文化的に価値のある公文書等を収集・保存し、県民共有の歴史的・文化的資産として次代に伝えていくとともに、展示や閲覧サービス等を通じて、広く情報提供・発信する施設です。

また、平成21年7月1日に「公文書等の管理に関する法律（＝公文書管理法）」が公布され、公文書の作成から、利用・公開、廃棄までの一連の公文書のライフサイクルを規定しています。公文書館についても、この法律において、歴史的公文書の収集・保存、調査研究、利用・公開を担う機関として位置づけられ、その役割を発揮することを期待されています。

公文書館の機能 一般的に公文書館のもつ機能は、以下のとおり考えられています。

（収集・整理・保存）

一定期間を経過した公文書を、県の機関から引き継いで、評価選別し、歴史的資料として整理・保存します。

（閲覧・情報提供）

整理を終えた資料は、公文書館が定める手続きにより、閲覧、複写等の利用に供することにより、県民による活用を進めます。

（調査・研究）

公文書等の収集、保存、活用・発信にあたり、調査研究を行います。

○公文書館の業務と取り扱い資料（各都道府県の公文書館の機能を参考）

公文書館の業務

- ① 歴史的公文書等の収集・保存
- ② 歴史的公文書等の調査研究
- ③ 歴史的公文書等の閲覧・情報提供
（閲覧、HP、出版、展示など）
- ④ 各種研修講座、講習会
- ⑤ 連絡協議会、保存・活用ネットワーク、インターンシップなど

公文書館が扱う資料

- a) 公文書（明治期文書・歴史的公文書）

※歴史的公文書とは
歴史資料として重要なものとして選別、保存された公文書のことをいいます。

- b) 県史収集資料・古文書等
- c) 行政刊行物、図書

(2)公文書館特有の機能（本来博物館には見られない機能）

公文書館の機能については、博物館には見られない、公文書館機能として固有の部分があります。

（収集）

博物館の資料収集（採集、購入、寄贈など）の方法とは異なり、県が作成した公文書の保存年限を越えたものについて、まず、県の執行部局から「移管」を受けます。その上で、歴史的価値のある公文書を「選別」し、歴史的公文書としたものについて、収集し、受け入れした後、整理（簿冊の整備とマイクロフィルム化など）を行った上で、受け入れますが、これは、公文書館固有の機能です。

（保存）

保存についても、公文書館によっては、長期保存期限の文書について、散逸や劣化を防ぐために、本来執行部局で保存・管理している保存年限未満の文書であっても、公文書館で「中間書庫」と呼ばれる場所を設けて、保存している場合があります。

（閲覧）

歴史的公文書の閲覧にあたっては、受け入れしても、公文書によっては、一定の年数が経過しないうちは、公開できないものがあったり、個人情報や公開に適さない情報が含まれている場合は、その該当部分を見えないようにしてから閲覧に供する必要があったりするため、その基準や手続きを定めた規程が必要になります。また、歴史的公文書の閲覧については、行政職員が職務遂行上の必要性から、過去の文書を閲覧する場合があります。このような閲覧については、個人情報があっても見せ

る必要があることなど、行政職員の閲覧は例外的な要素をもっています。これらのことも、博物館とは異なる公文書館特有のことといえます。

(参考) 公文書館の根拠となる関係条文を掲載

公文書館法(昭和六十二年十二月十五日法律第百十五号)

最終改正：平成一一年一二月二二日法律第一六一号

(責務)

第三条 国及び地方公共団体は、歴史資料として重要な公文書等の保存及び利用に関し、適切な措置を講ずる責務を有する。

(公文書館)

第四条 公文書館は、歴史資料として重要な公文書等(国が保管していた歴史資料として重要な公文書その他の記録を含む。次項において同じ。)を保存し、閲覧に供するとともに、これに関連する調査研究を行うことを目的とする施設とする。

2 公文書館には、館長、歴史資料として重要な公文書等についての調査研究を行う専門職員その他必要な職員を置くものとする。

2 新博物館における公文書館機能の一体化の考え方

(1)博物館で公文書館機能を一体化する意味

博物館と公文書館機能を一体化するというのは、博物館において、1で示したような公文書館の機能を発揮できるようにすることです。

公文書館機能を一体化することにより、歴史的公文書のほか公文書館で扱う資料を博物館資料として一体的に扱うことにより、三重の自然と歴史・文化に関する収蔵資料の幅を広げ、調査研究や活用発信など博物館活動の機能を高めることができます。このことは、県民・利用者にとって大きなメリットになります。今後新博物館が、このような資料連携の視点から、県立図書館との連携も進めていくことにより、さらに、機能向上につながると考えられます。

また、博物館との一体化により、総合的にみると、各々単独で施設をもつより、収蔵等の施設・設備面や、人員体制などについて、効率化やコスト減につながります。

(2)公文書館機能を一体化するために必要なこと

そこで、本来博物館が持っていない機能を発揮できるように整備する必要があります。このために、特に必要になるのは、概ね次のことです。

県の執行部局で作成した公文書が適切に保存、移管されること
移管された公文書を選別する場所とそのための諸規程

選別後の歴史的公文書を整理し、受け入れるための施設

(例：生物被害処置室、公文書等保存処理室、公文書整理室、歴史
資料収蔵庫(歴史的公文書資料含む))

博物館の閲覧と異なる点を踏まえた、歴史的公文書閲覧に際しての
必要な規程と適切な施設(例：資料閲覧室、書庫、展示室)

公文書館機能を発揮するための専門人材(アーキビスト)

博物館に公文書館機能を一体化するにあたり、公文書館に求められる
機能を発揮するために求められる独自の課題として、以上のことを踏ま
えたしくみ、諸規程、施設、人材を整備する必要があります。

(3)新博物館における公文書館機能の一体化に向けた取組状況

新博物館においては、(2)で整理した課題のうち施設面での対応とし
ては、別紙「新博物館における歴史的公文書選別・保存の想定フロー」
のとおり、整理しました。

今後は、これに沿って施設整備を進めるとともに、適切に公文書が移
管されるためのしくみや人材の確保などの整備についても、引き続き関
係部局や関係機関と検討を進めていきます。

(平成21年度に行った具体的取組)

新博物館整備推進室と連携しながら、現在公文書館機能にかかる業務
を所管している文化振興室県史編さんグループが、以下の取組を進めて
きました。

- ・ 展示設計において、「三重の実物図鑑ルーム」の展示に「受け継いで
いくキロクコーナー」を組み込みました。
- ・ 県庁内の関係5室によるワーキンググループを開き、検討や調整を進
めてきました。(平成20年度から)
- ・ 県職員対象の研修会を開いたり、関係室が実施する研修内容に歴史的
公文書の説明時間を組み込むなど、県職員の歴史的公文書や公文書館
機能の重要性にかかる意識啓発を進めました。
- ・ 市町の担当部署の参加を得て、歴史的公文書等の保存・活用に向けた
連携ネットワーク構築のための会議やワーキングを行ってきました。

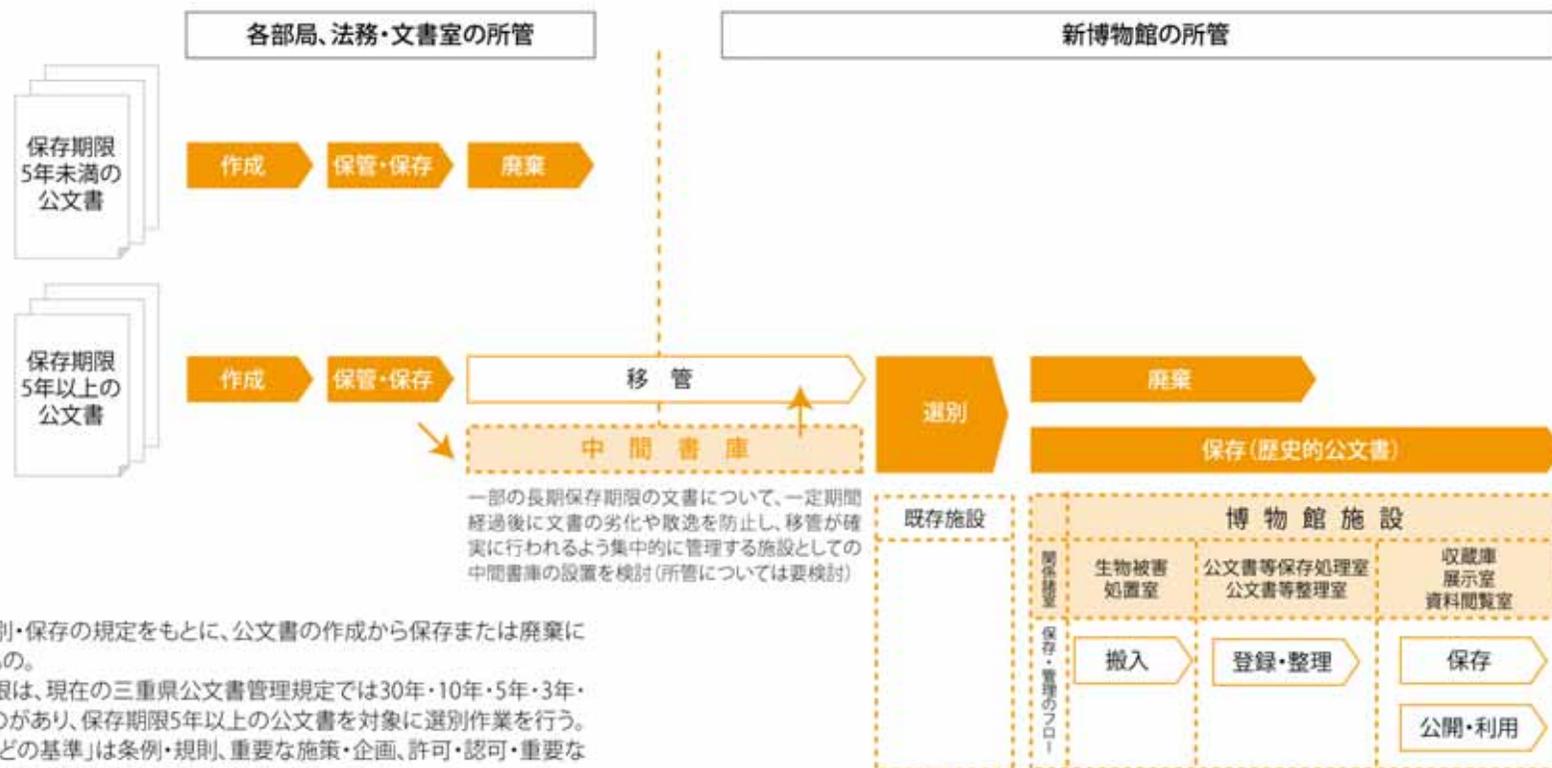
県が作成した公文書等を歴史的公文書として、新博物館に受け入れて保存・活用するまでの流れ

歴史資料として重要な公文書等（「歴史的公文書」）を保存し、利用に供する公文書館法に基づく施設としての機能を持ち、併せて博物館の資料として一体的に活用することで、三重の文化振興に寄与し、より幅広い博物館活動を促進する。



<歴史的公文書の保存・公開のプロセス>

保存対象資料を選別するための作業は、既存の施設（博物館外）を活用することとし、選別を終えて保存することが決まった歴史的公文書を博物館に搬入、1階の生物被害処理室で殺虫処理のあと、2階の公文書等保存処理室、公文書等整理室で整理作業等を行います。1階の収蔵庫（歴史資料収蔵庫等）で保存し、保存された歴史的公文書等は、3階の資料閲覧室で利用に供する。ただし、歴史的公文書は情報公開条例の対象外であり、閲覧・公開にあたっては、規定などの整備が必要となります。



※本図は現行の公文書選別・保存の規定をもとに、公文書の作成から保存または廃棄にいたる工程を想定したもの。

※歴史的公文書の保存期限は、現在の三重県公文書管理規定では30年・10年・5年・3年・1年および1年未満のものがあり、保存期限5年以上の公文書を対象に選別作業を行う。

※「選別保存する公文書などの基準」は条例・規則、重要な施策・企画、許可・認可・重要な契約、行政区画、重要な行事・災害など15の収集項目からなっている。

運営

1 2009(平成21)年度の検討

(1)組織・運営体制の整備について

開館までの組織・運営体制の整備についての具体的な内容、スケジュールについて、現在検討を行っており、最終報告で記述します。

多様な財源確保について、現在検討している内容や今後の進め方について、最終報告で記述します。

(2)主体的に参画する人材について

現博物館サポートスタッフなど、新博物館の活動に主体的に参画する人材について、現在検討を進めており、最終報告で記述します。

(3)新博物館づくりに参画するしくみについて

「みんなでつくる博物館会議」、「こども会議」など、新博物館づくりの基本的なしくみについて、本年度の成果と課題をまとめ、今後の方向性について、最終報告で記述します。

2 2010(平成22)年度以降の検討の進め方

1で記述した内容を発展させながら、運営面や事業実施面で、多様な人材が関わることのできるしくみや環境づくりを検討します。

具体的な検討項目については、1の内容をもとに、最終報告で記述します。

連携を進めるための主体別検討

以下の主体別に、ヒアリング又はアンケート調査を現在、実施しており、最終報告において、その結果を記述します。

1 主体別ヒアリング・学校等へのアンケートの実施状況

大学
まちかど博物館
サポートスタッフ
学校

2 今後の取組方向

第3章 2010（平成22）年度に向けて

1 2010（平成22）年度の位置づけ

2010（平成22）年度は、展示設計の仕上げの年であり、建築工事に着手する年でもあります。

このため、展示設計を支える調査研究に力を注ぐとともに、博物館活動や運営について、具体的に構築するため、県民・利用者の皆さんとともに、取組テーマ1～4にかかる取組を進めます。基本的には、2009（平成21）年度にスタートさせた取組を発展させるとともに、必要に応じて2011（平成23）年度のために必要な事業をスタートさせます。

2 2010（平成22）年度を取組等

最終報告で、より詳細に記述します。

- (1)展示設計と連動した主要なテーマについての調査研究を実施します。
- (2)新博物館の活動について、試行的な取組として展開し、県民・利用者の皆さんとともに検討を進めます。
- (3)(2)の活動を、同時に広報の機会としていきます。
- (4)多様な主体との連携のための取組を行います。
- (5)取組をみんなで振り返り、次の取組につなげる方法（成果指標など）について試行と検討を進めます。
- (6)基本計画に位置づけた県民参画のしくみについての試行と検討を進めます。

3 取組項目とスケジュール

第2章での記述をもとに、最終報告において、2010（平成22）年度の取組項目とスケジュールを整理して、記述します。

資料編目次

資料 1	新県立博物館に関するアンケート調査 - 結果概要 -	3 1
資料 2	県民一口提案意見一覧	4 7
資料 3	県民等からの意見の反映状況	6 1
資料 4	連携についての主体別ヒアリング - 結果概要 -	6 5
資料 5	学校教育における博物館等の活用と連携に関する調査 - 結果概要 -	6 5

資料 4 及び 5 については、最終報告において、添付します。

資料 1 新県立博物館に関するアンケート調査 —結果概要—

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざして整備を進めている新県立博物館整備の参考資料として、県民等の皆さんから意見をお聞きするために実施したものです。

2. 調査の方法

- ① 調査対象 県立博物館移動展示およびM祭 2009 における来場者
- ② 調査方法 会場アンケート（調査票の直接配布による本人記入方式）
- ③ 調査場所・調査期間・サンプル数は、下記回収結果の通り

3. 回収結果

調査機会	調査場所	調査期間	回収数
県立博物館移動展示（伊賀）	伊賀市	2009年7月11日～8月9日	263人
県立博物館移動展示（鈴鹿）	鈴鹿市	2009年8月27日～9月13日	672人
M祭 2009	県総合文化センター	2009年8月9日	290人

4. 注意事項

- ① 比率については、パーセントで示しましたが、小数点第2位で四捨五入しているため、パーセントの合計が100.0にならない場合もあります。
- ② 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0をこえる場合があります。
- ③ 「無回答」は回答していないもの、「無効回答」は選ぶべき選択肢の数や答え方を間違っているなど、集計上有効でない回答を示しています。

総 括

調査結果のポイント

- 新しい県立博物館に関して、『展示』機能を重視する意見、『体験』や『交流』の機会を求める意見、なかでも「子ども」が体験する機会の提供に期待する意見が多く見られました。
- 『展示』については、施設にとって大切だと思うこととして「展示スペースの充実」が、使いやすさや居心地のよさを求める意見とともに多く、さらに交流創造エリアにおける「子ども体験展示室」や「三重の実物図鑑ルーム」、「資料閲覧室」などへの関心が高く、「魅力的な企画展や展覧会」などの活動の充実を求める意見も多くなっています。
- 『体験』、『交流』については、交流創造エリアにおける「子ども体験展示室」、「実験実習室」への関心が際だって高いこと、さらに充実してほしい活動として、参加型の体験・実習などのプログラムや催しに関する選択肢を選んだ人が非常に多くなっています。特に、「子ども体験展示室」への関心は高く、「学校と連携した活動」などとともに、子どもが体験できる機会への期待が大きいものと考えられます。
- 基本展示室に関する設問においては、回答者のお住まいの地域にかかわるテーマへの関心が高いことがうかがわれますが、新県立博物館の活動で充実してほしいものとして「地域の資料・情報の収集と発信」を選んだ人も多く、地域と博物館との関わりについて高い関心が示されています。

調査結果 【伊賀移動展示／鈴鹿移動展示／M祭 2009】

◆あなたご自身について、教えてください。

◇今回の調査は、県立博物館移動展示およびM祭の開催場所や開催内容に応じて、来場者のお住まいや年齢に偏りがあり、調査結果は、回答者の属性に配慮して読み取る必要があります。

◇伊賀移動展示では、伊賀市にお住まいの人が多い（40.3%）ですが、県外にお住まいの人も3分の1近くを占めています。鈴鹿移動展示では、鈴鹿市にお住まいの方が大部分を占め（85.6%）、M祭では、津市にお住まいの人が約半数を占めていますが、その他は主に県内の近隣市町に分散しています。

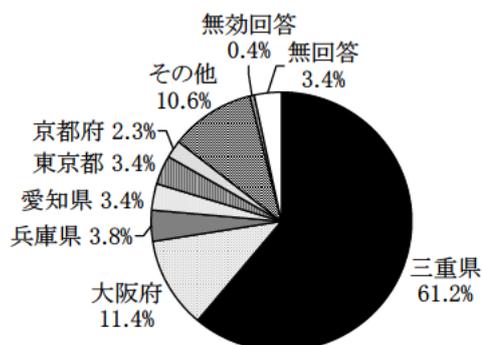
◇年齢は、伊賀移動展示では、50代、60代の人が多く、鈴鹿移動展示およびM祭では30代から40代に集中し、鈴鹿移動展示では、続いて60代の人が多い状況です。

◇お住まい

【都道府県】

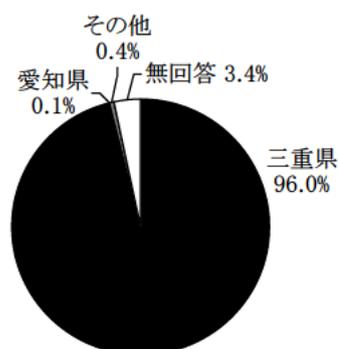
《 伊賀移動展示 》

	回答数	比率
三重県	161	61.2%
大阪府	30	11.4%
兵庫県	10	3.8%
愛知県	9	3.4%
東京都	9	3.4%
京都府	6	2.3%
その他	28	10.6%
無効回答	1	0.4%
無回答	9	3.4%
総計	263	100.0%



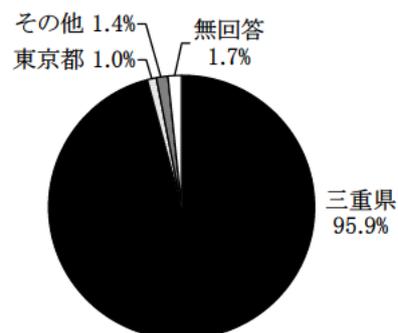
《 鈴鹿移動展示 》

	回答数	比率
三重県	645	96.0%
愛知県	1	0.1%
その他	3	0.4%
無回答	23	3.4%
総計	672	100.0%



《 M 祭 》

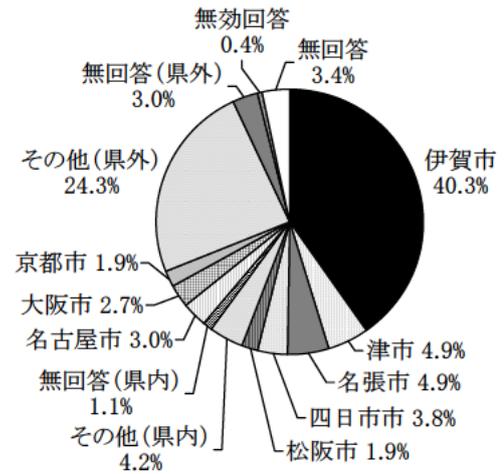
	回答数	比率
三重県	278	95.9%
東京都	3	1.0%
その他	4	1.4%
無回答	5	1.7%
総計	290	100.0%



【市町村】

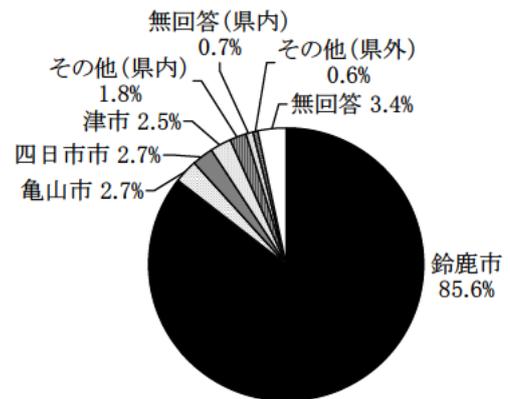
《 伊賀移動展示 》

	回答数	比率
三重県	161	61.2%
伊賀市	106	40.3%
津市	13	4.9%
名張市	13	4.9%
四日市市	10	3.8%
松阪市	5	1.9%
その他(県内)	11	4.2%
無回答(県内)	3	1.1%
県外	92	35.0%
名古屋市	8	3.0%
大阪市	7	2.7%
京都市	5	1.9%
その他(県外)	64	24.3%
無回答(県外)	8	3.0%
無効回答	1	0.4%
無回答	9	3.4%
総計	263	100.0%



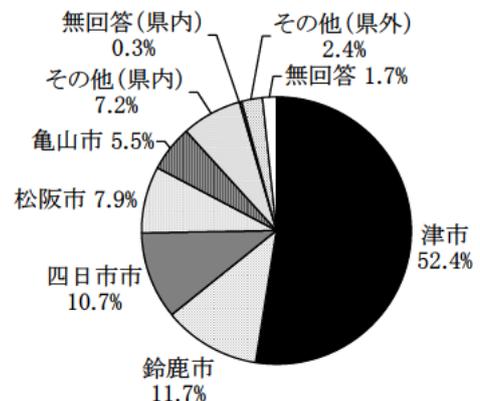
《 鈴鹿移動展示 》

	回答数	比率
三重県	645	96.0%
鈴鹿市	575	85.6%
亀山市	18	2.7%
四日市市	18	2.7%
津市	17	2.5%
その他(県内)	12	1.8%
無回答(県内)	5	0.7%
その他(県外)	4	0.6%
無回答	23	3.4%
総計	672	100.0%



《 M 祭 》

	回答数	比率
三重県	278	95.9%
津市	152	52.4%
鈴鹿市	34	11.7%
四日市市	31	10.7%
松阪市	23	7.9%
亀山市	16	5.5%
その他(県内)	21	7.2%
無回答(県内)	1	0.3%
その他(県外)	7	2.4%
無回答	5	1.7%
総計	290	100.0%



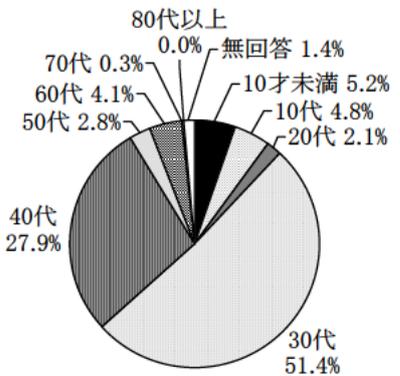
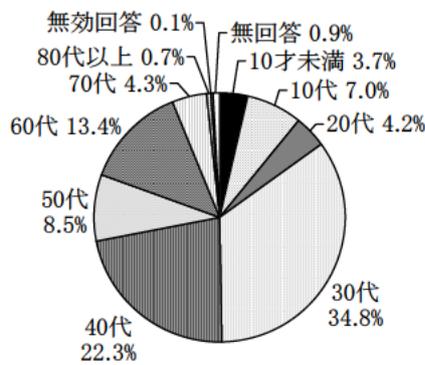
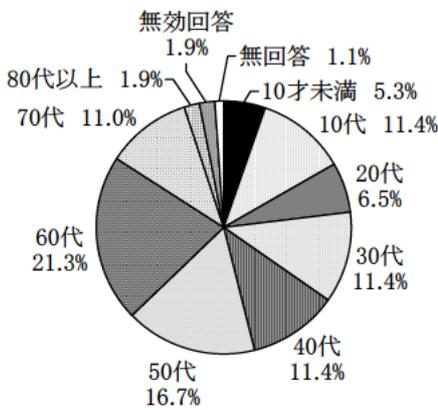
◇年齢

	伊賀移動展示		鈴鹿移動展示		M 祭	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
10才未満	14	5.3%	25	3.7%	15	5.2%
10代	30	11.4%	47	7.0%	14	4.8%
20代	17	6.5%	28	4.2%	6	2.1%
30代	30	11.4%	234	34.8%	149	51.4%
40代	30	11.4%	150	22.3%	81	27.9%
50代	44	16.7%	57	8.5%	8	2.8%
60代	56	21.3%	90	13.4%	12	4.1%
70代	29	11.0%	29	4.3%	1	0.3%
80代以上	5	1.9%	5	0.7%	0	0.0%
無効回答	5	1.9%	1	0.1%	0	0.0%
無回答	3	1.1%	6	0.9%	4	1.4%
総計	263	100.0%	672	100.0%	290	100.0%

《 伊賀移動展示 》

《 鈴鹿移動展示 》

《 M 祭 》



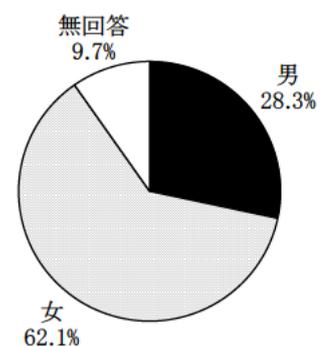
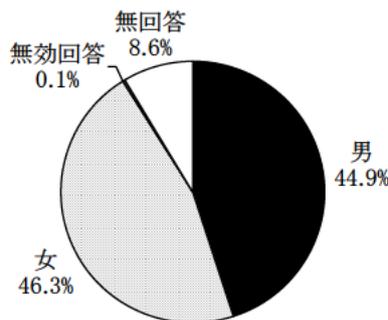
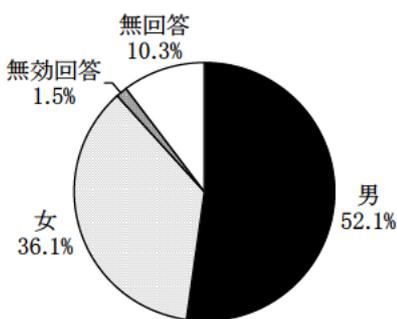
◇性別

	伊賀移動展示		鈴鹿移動展示		M 祭	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
男	137	52.1%	302	44.9%	82	28.3%
女	95	36.1%	311	46.3%	180	62.1%
無効回答	4	1.5%	1	0.1%	0	0.0%
無回答	27	10.3%	58	8.6%	28	9.7%
総計	263	100.0%	672	100.0%	290	100.0%

《 伊賀移動展示 》

《 鈴鹿移動展示 》

《 M 祭 》



◆新県立博物館についてお聞きします。

◇新しい県立博物館の施設にとって、大切だと思うことは何ですか？（3つまで）

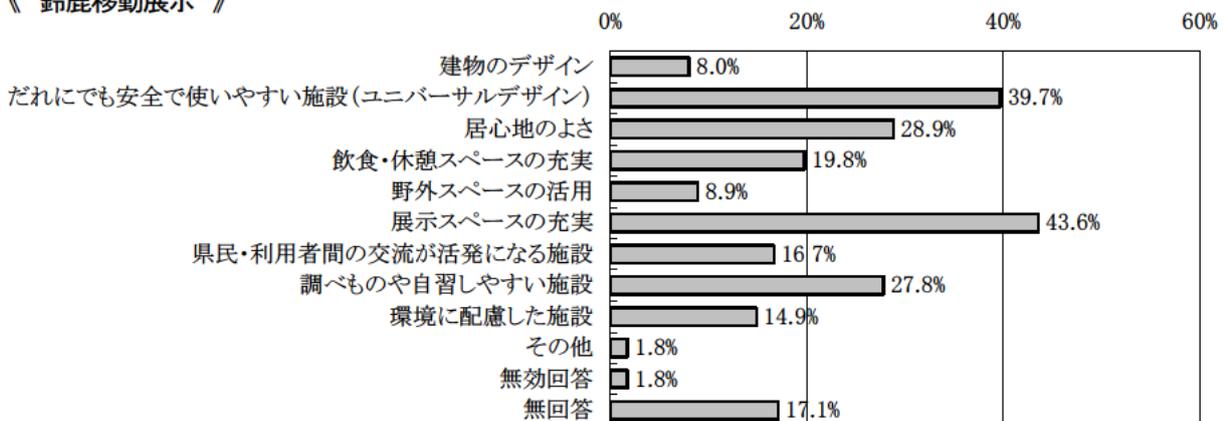
◇鈴鹿移動展示では、「展示スペースの充実」、「だれにでも安全で使いやすい施設（ユニバーサルデザイン）」の順に選んだ人が多く、M祭では、逆に「だれにでも安全で使いやすい施設」、「展示スペースの充実」の順に多くなっていますが、ともにこの2項目を選んだ人が非常に多くなっています。

◇続いて「調べものや自習しやすい施設」、「居心地のよさ」、「飲食・休憩スペースの充実」、「県民・利用者間の交流が活発になる施設」などの項目を選んだ人が多く、使いやすさ、居心地のよさ、交流空間の充実などを求める意見が多くみられました。

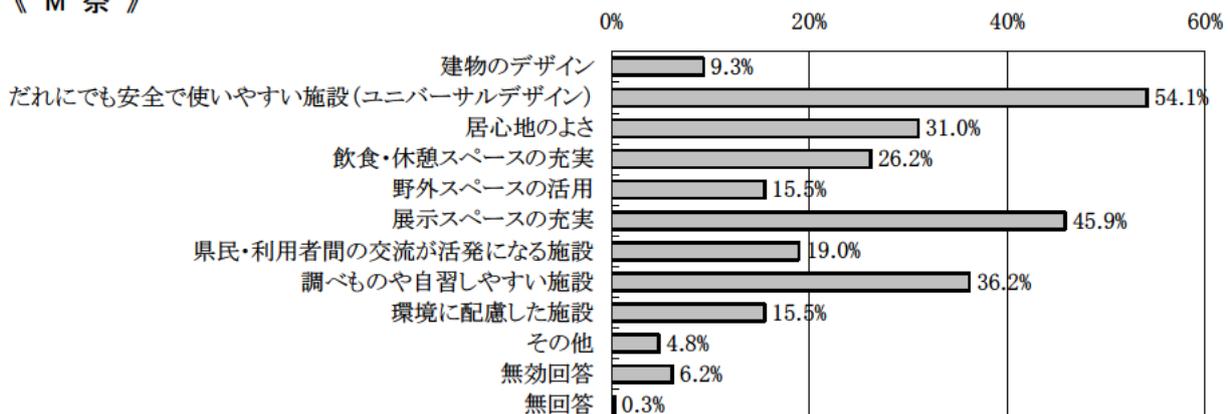
※伊賀移動展示では、この設問を行っていません。

	鈴鹿移動展示		M 祭	
	回答数	比率	回答数	比率
建物のデザイン	54	8.0%	27	9.3%
だれにでも安全で使いやすい施設(ユニバーサルデザイン)	267	39.7%	157	54.1%
居心地のよさ	194	28.9%	90	31.0%
飲食・休憩スペースの充実	133	19.8%	76	26.2%
野外スペースの活用	60	8.9%	45	15.5%
展示スペースの充実	293	43.6%	133	45.9%
県民・利用者間の交流が活発になる施設	112	16.7%	55	19.0%
調べものや自習しやすい施設	187	27.8%	105	36.2%
環境に配慮した施設	100	14.9%	45	15.5%
その他	12	1.8%	14	4.8%
無効回答	12	1.8%	18	6.2%
無回答	115	17.1%	1	0.3%
回答者数	672	100.0%	290	100.0%
総回答数	1539	229.0%	766	264.1%

《 鈴鹿移動展示 》



《 M 祭 》



新県立博物館のパンフレットを観て感じたことをお答えください。

「交流創造エリア」で、充実してほしいと思うのは次のどれですか？

すべての調査において、「こども体験展示室」への関心が高く、4割から8割近くの人が充実してほしいと答えています。特に、M祭は子どもが主役のイベントであることが影響していると考えられますが、77.9%と、非常に高い比率となっています。

次いで伊賀および鈴鹿移動展示では、「三重の実物図鑑ルーム」を選んだ人が多く、M祭でも3番目に多くなっています。移動展示では、「資料閲覧室」も比較的多くの人が選んでおり、展示・資料の充実への期待の高さがうかがわれます

M祭で2番目に多かったのは、「実験実習室」で、移動展示においても3番目に多くなっています。その他、「学習交流スペース」なども多く、体験・交流の場への期待の高さがうかがわれます。

（伊賀移動展示）（あてはまるものすべて）

	回答数	比率
開かれた空間のなかでさまざまな活動や交流が生まれる「学習交流スペース」	45	17.1%
県民のみなさんの活動をサポートする「レファレンスカウンター」	21	8.0%
こどもたちが、もっと博物館を好きになってもらうための「こども体験展示室」	112	42.6%
三重の生き物や岩石、化石、歴史などの資料を見られる「三重の実物図鑑ルーム」	88	33.5%
落ち着いて収蔵資料や書籍などを閲覧できる「資料閲覧室」	56	21.3%
研修会やガイダンスを行う「研修ガイダンスルーム」	24	9.1%
ワークショップや実験・実習講座を開催する「実験実習室」	63	24.0%
県民・利用者のみなさんや団体の博物館活動拠点「県民活動室」	25	9.5%
その他	2	0.8%
無回答	64	24.3%
回答者数	263	100.0%
総回答数	500	190.1%

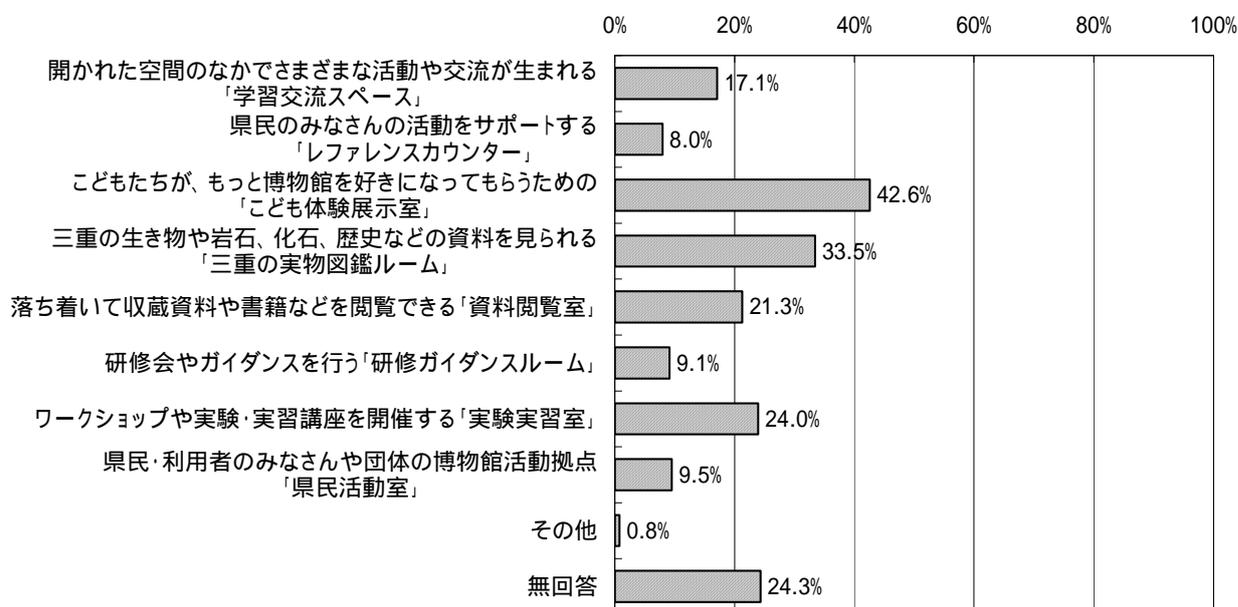
（鈴鹿移動展示）（3つまで）

	回答数	比率
開かれた空間のなかでさまざまな活動や交流が生まれる「学習交流スペース」	165	24.6%
県民のみなさんの活動をサポートする「レファレンスカウンター」	70	10.4%
こどもたちが、もっと博物館を好きになってもらうための「こども体験展示室」	367	54.6%
三重の生き物や岩石、化石、歴史などの資料を見られる「三重の実物図鑑ルーム」	284	42.3%
落ち着いて収蔵資料や書籍などを閲覧できる「資料閲覧室」	117	17.4%
研修会やガイダンスを行う「研修ガイダンスルーム」	32	4.8%
ワークショップや実験・実習講座を開催する「実験実習室」	219	32.6%
県民・利用者のみなさんや団体の博物館活動拠点「県民活動室」	68	10.1%
その他	1	0.1%
無効回答	4	0.6%
無回答	128	19.0%
回答者数	672	100.0%
総回答数	1455	216.5%

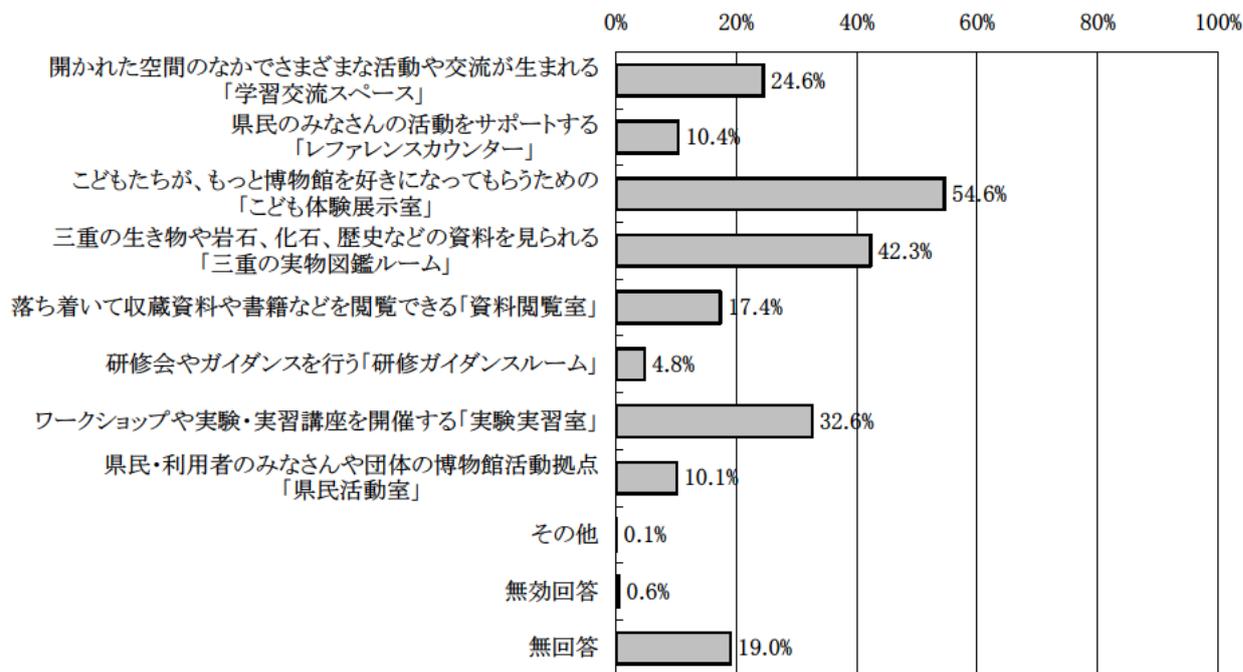
(M 祭) (3つまで)

	回答数	比率
開かれた空間のなかでさまざまな活動や交流が生まれる「学習交流スペース」	89	30.7%
県民のみなさんの活動をサポートする「レファレンスカウンター」	27	9.3%
子どもたちが、もっと博物館を好きになってもらうための「こども体験展示室」	226	77.9%
三重の生き物や岩石、化石、歴史などの資料を見られる「三重の実物図鑑ルーム」	133	45.9%
落ち着いて収蔵資料や書籍などを閲覧できる「資料閲覧室」	47	16.2%
研修会やガイダンスを行う「研修ガイダンスルーム」	11	3.8%
ワークショップや実験・実習講座を開催する「実験実習室」	168	57.9%
県民・利用者のみなさんや団体の博物館活動拠点「県民活動室」	18	6.2%
その他	5	1.7%
無効回答	2	0.7%
無回答	16	5.5%
回答者数	290	100.0%
総回答数	742	255.9%

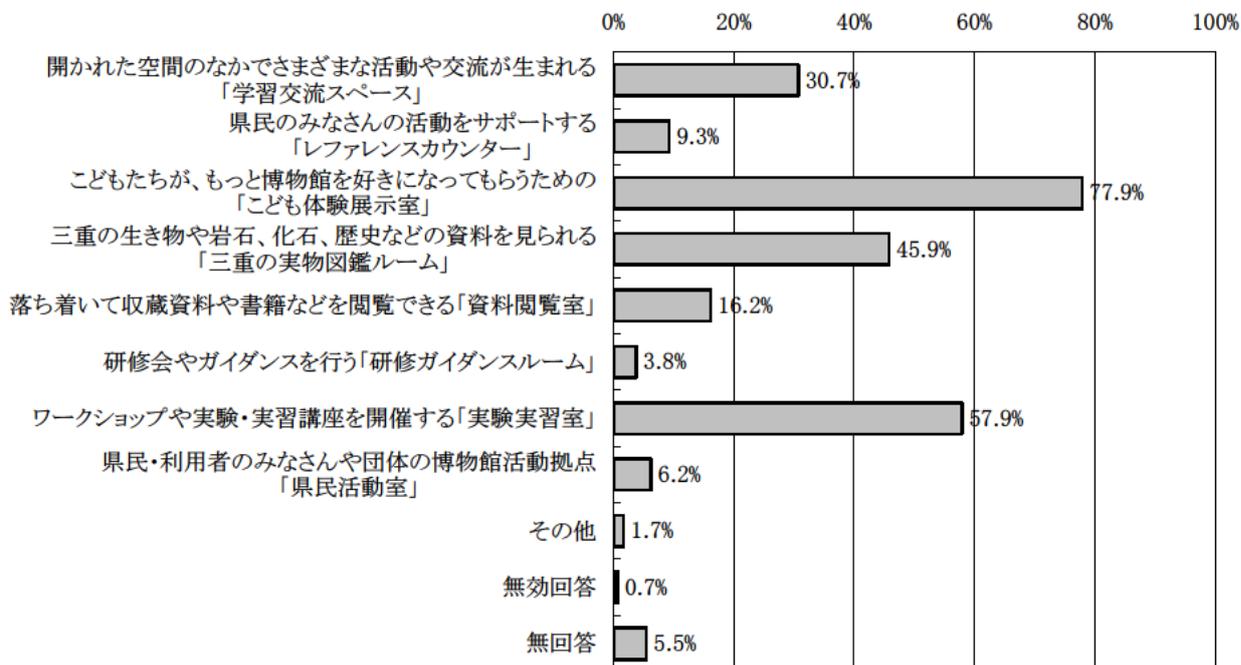
(伊賀移動展示)



《 鈴鹿移動展示 》



《 M 祭 》



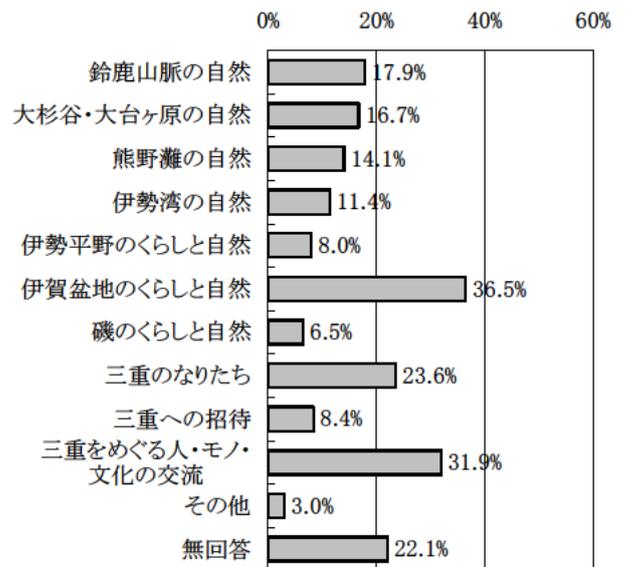
◇「基本展示室」のテーマで、特に興味があるのはどれですか？

◇調査を行った地域（開催場所）に関連するテーマを選んだ人が多くなっており、伊賀移動展示では、「伊賀盆地の暮らしと自然」（36.5%）、鈴鹿移動展示では、「鈴鹿山脈の自然」（59.5%）、伊勢湾の自然（31.4%）、M祭では、「伊勢湾の自然」（39.0%）、「鈴鹿山脈の自然」（32.4%）などとなっています。

◇なお、「三重をめぐる人・モノ・文化の交流」、「三重のなりたち」は、共通して選んだ人が比較的多くなっています。

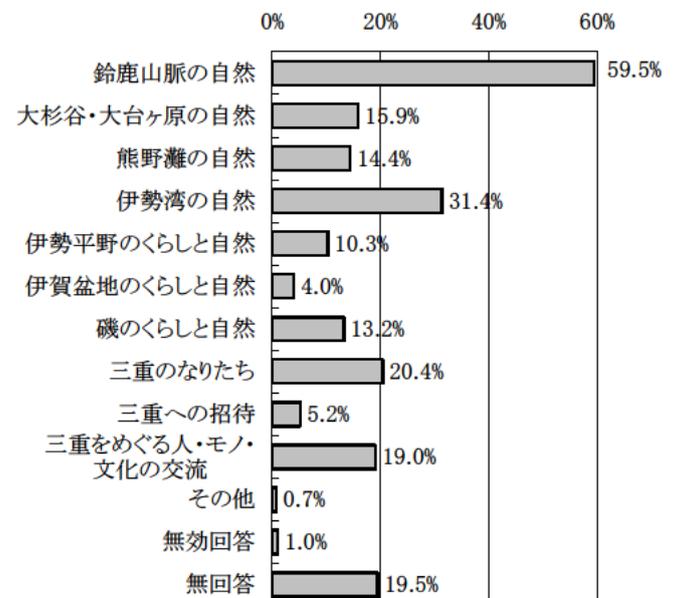
《 伊賀移動展示 》（あてはまるものすべて）

	回答数	比率
鈴鹿山脈の自然	47	17.9%
大杉谷・大台ヶ原の自然	44	16.7%
熊野灘の自然	37	14.1%
伊勢湾の自然	30	11.4%
伊勢平野の暮らしと自然	21	8.0%
伊賀盆地の暮らしと自然	96	36.5%
磯の暮らしと自然	17	6.5%
三重のなりたち	62	23.6%
三重への招待	22	8.4%
三重をめぐる人・モノ・文化の交流	84	31.9%
その他	8	3.0%
無回答	58	22.1%
回答者数	263	100.0%
総回答数	526	200.0%



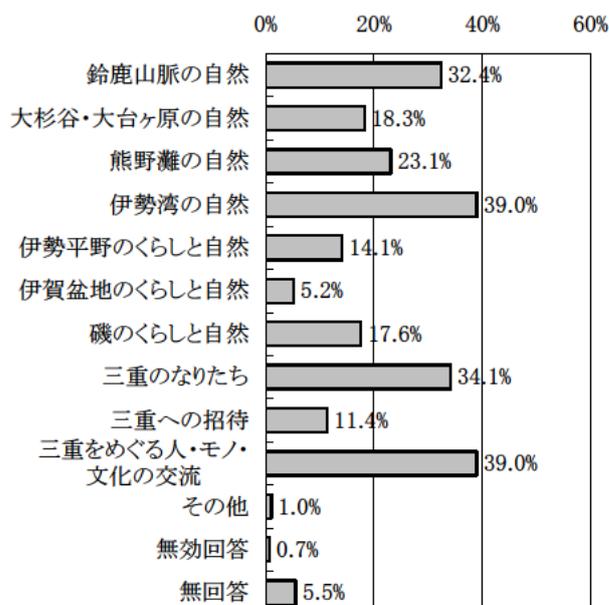
《 鈴鹿移動展示 》（3つまで）

	回答数	比率
鈴鹿山脈の自然	400	59.5%
大杉谷・大台ヶ原の自然	107	15.9%
熊野灘の自然	97	14.4%
伊勢湾の自然	211	31.4%
伊勢平野の暮らしと自然	69	10.3%
伊賀盆地の暮らしと自然	27	4.0%
磯の暮らしと自然	89	13.2%
三重のなりたち	137	20.4%
三重への招待	35	5.2%
三重をめぐる人・モノ・文化の交流	128	19.0%
その他	5	0.7%
無効回答	7	1.0%
無回答	131	19.5%
回答者数	672	100.0%
総回答数	1443	214.7%



《 M 祭 》 (3つまで)

	回答数	比率
鈴鹿山脈の自然	94	32.4%
大杉谷・大台ヶ原の自然	53	18.3%
熊野灘の自然	67	23.1%
伊勢湾の自然	113	39.0%
伊勢平野のくらしと自然	41	14.1%
伊賀盆地のくらしと自然	15	5.2%
磯のくらしと自然	51	17.6%
三重のなりたち	99	34.1%
三重への招待	33	11.4%
三重をめぐる人・モノ・文化の交流	113	39.0%
その他	3	1.0%
無効回答	2	0.7%
無回答	16	5.5%
回答者数	290	100.0%
総回答数	700	241.4%



◇新県立博物館の開館に向け、どのような活動に参画したいですか？(あてはまるものすべて)

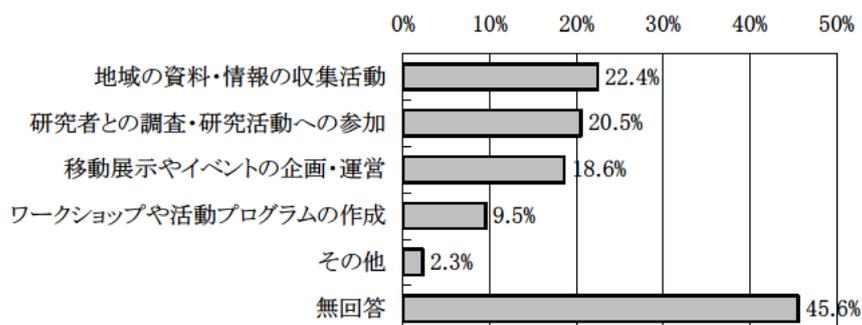
◇伊賀移動展示だけの設問ですが、「地域の資料・情報の収集活動」(22.4%)、「研究者との調査・研究活動への参加」(20.5%)、「移動展示やイベントの企画・運営」(18.6%)について、それぞれ2割程度の方が参画したい活動として選び、新しい県立博物館の運営等への参画に関心を示していただいています。

※この設問は、伊賀移動展示でのみ、行いました。

《 伊賀移動展示 》

	回答数	比率
地域の資料・情報の収集活動	59	22.4%
研究者との調査・研究活動への参加	54	20.5%
移動展示やイベントの企画・運営	49	18.6%
ワークショップや活動プログラムの作成	25	9.5%
その他	6	2.3%
無回答	120	45.6%
回答者数	263	100.0%
総回答数	313	119.0%

《 伊賀移動展示 》



◇新県立博物館の活動で充実して欲しいのはどれですか？（3つまで）

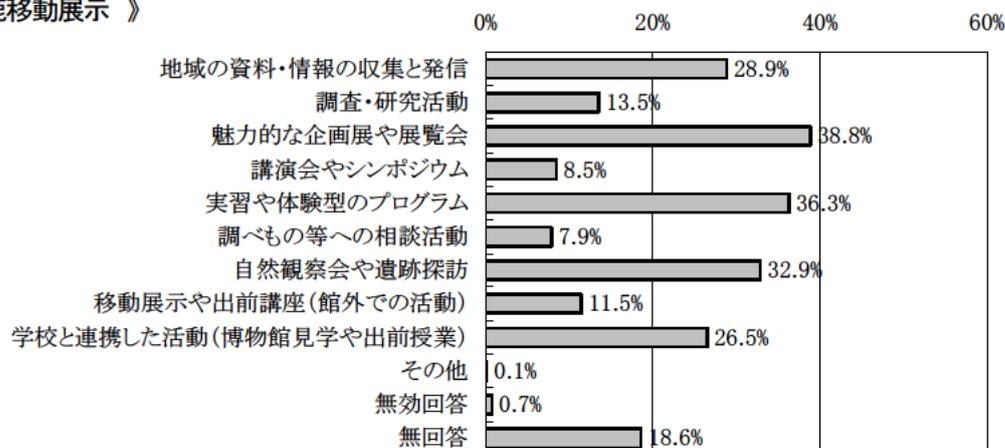
◇鈴鹿移動展示では、「魅力的な企画展や展覧会」（38.8%）、「実習や体験型のプログラム」（36.3%）、「自然観察会や遺跡探訪」（32.9%）への参加を選んだ人が多く、M祭でも、「実習や体験型のプログラム」（56.7%）、「魅力的な企画展や展覧会」（50.7%）、「学校と連携した活動」（37.9%）、「自然観察会や遺跡探訪」（32.9%）の順となっており、企画展や展覧会の充実とともに参加・体験型の催しなどへの期待の高さがうかがえます。

◇一方、「地域の資料・情報の収集と発信」についても、鈴鹿移動展示で28.9%、M祭で20.3%と、比較的多くの人が充実してほしい活動として選択しています。

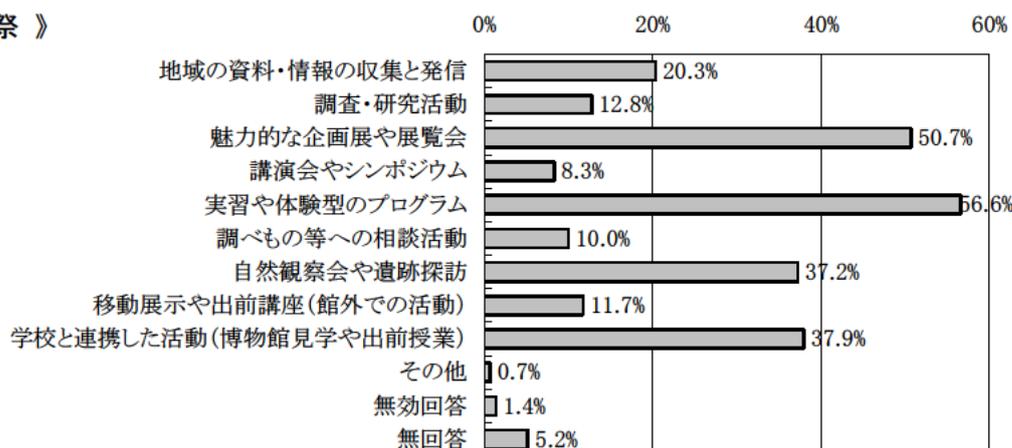
※伊賀移動展示では、この設問を行っていません。

	鈴鹿移動展示		M 祭	
	回答数	比率	回答数	比率
地域の資料・情報の収集と発信	194	28.9%	59	20.3%
調査・研究活動	91	13.5%	37	12.8%
魅力的な企画展や展覧会	261	38.8%	147	50.7%
講演会やシンポジウム	57	8.5%	24	8.3%
実習や体験型のプログラム	244	36.3%	164	56.6%
調べもの等への相談活動	53	7.9%	29	10.0%
自然観察会や遺跡探訪	221	32.9%	108	37.2%
移動展示や出前講座（館外での活動）	77	11.5%	34	11.7%
学校と連携した活動（博物館見学や出前授業）	178	26.5%	110	37.9%
その他	1	0.1%	2	0.7%
無効回答	5	0.7%	4	1.4%
無回答	125	18.6%	15	5.2%
回答者数	672	100.0%	290	100.0%
総回答数	1507	224.3%	733	252.8%

《 鈴鹿移動展示 》



《 M 祭 》



自由記述一覧

[移動展示 伊賀会場 (A)]

この伊賀会場(A)については、実施期間の途中で、アンケートの設問がわかりにくいという指摘があり、設問内容を変えたため、上記集計には含めていない、初期の回答の自由記述のみ掲載します。

新県立博物館のパネル展示を観て感じたことをお答えください。

新県立博物館に関して、ご意見などありましたらお書きください。

- より早いopenを望みます。
- 伊賀市にも博物館を作ってほしい。
- 高齢になると遠方への車の移動が出来にくいので、移動展示等あれば良い。
- いろいろしてみたい！！
- 新県立博物館の館長は県内の人（県内に10年以上いた人も含めて）でやってもらうべきで一日も早く決定すべきだ。
- 人からも説明がほしい。実物がたくさん見たい。
- もう少し説明がほしい（人から）。スタンプラリーを作るといい。
- すごくきれいで楽しそうな博物館になりそうだなあと思いました。展示だけでなく、体験したり子どもも楽しめる施設になると良いと思いました。
- 博物館運営にあたる学芸員の来館者への説明に十分な配慮を。独善的にならないことも肝要。
- 県博の移動博物館の催しも今後計画して頂いたらと思います。
- 楽しいところにしてほしい。
- 行くのが楽しみです。
- 今のこの博物館のように素晴らしい博物館にして下さい。
- 私は伊賀ではなくて松阪の人間なのであまり博物館の存在を知りませんでした。もっともっと皆に知ってもらえたら良いのでは・・・と思います。
- 博物館が新しく出来ることの宣伝をもっと行ってはいかがでしょう。情報が行き届いていないように思います。
- 遠くの地域からでも行ってみたい、と思うような博物館になったらいいなあと思いました。
- 標本をいっぱい置いてほしい。
- 新県立博物館ヤッター。
- 移動展示。
- オオサンショウウオになった気分を味わえる体験コーナーがあると面白いと思う。
- 歴史分野の展示を充実させて下さい。
- 博物館に行かなければ自然、歴史、文化に触れられない。そんな世の中では困りますので、自然を大切に子どもたちをたくさん育てて下さい。
- 今回のような移動展示を希望します。
- 展示品を豊富にしてほしい。
- ありがとうございます。
- 伊賀地域で出土したものや仏像が、市外で保管されていると聞いています。整備される県立博物館で展示されるようにして頂きたい。
- たくさんの資料展示されること望みます。
- これ程の展示物を見ることができ、無料で本当に満足です。ありがとうございます。
- 何度でも訪れたいような良い博物館を作って下さい。
- プラネタリウムのようなものもあれば嬉しいです。また、三重の だけではなく、例えば神戸市立博物館のように三重以外のものの特別展示もされるとありがたいです。
- 津市に作るなら遠方の児童の見学者には交通費一部補助制度を考えられたい。
- どうか一歩でも二歩でも進歩したものにして下さい。

- 県内の他の博物館など、関連施設との連携を密にしていってほしい。
- 新県立博物館が完成しましたらぜひ見学させて頂くのを楽しみにしております。ありがとうございました。
- ぜひとも、県立博物館へ行ってみたいです。
- オオサンショウウオの保護は現在どのようにされているか知りたいです。
- 交通などのテーマは入らないのですか？
- 期待しています。

[移動展示 伊賀会場 (B)]

三重県では、県民・利用者みなさんが博物館の活動や運営にかかわることができる「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくりを目標にしています。

問8 新県立博物館の開館に向け、どのような活動に参画したいですか？
そのほか、ご意見などありましたらお書きください。

- 伊勢市に作ってほしかったが、県のハシッポ（県境）だから仕方ないですナア。
- 皆様が活動できるように交通の便をもっと考えてほしい。
- 津から遠いエリアの人々も享受できるファンクションがほしいです。あるコーナーやセクションをごそと外して伊賀で展示してもらえるというようなシステムづくりをぜひお願いします。
- 自然系の展示しかないようですが、歴史のことを知る展示はないのですか。伊勢神宮の歴史など、三重県の歴史をトータルして見る展示がほしい。
- 子どもだけでなく、大人もドキドキワクワクするような、スケールの大きな展示があるととても楽しいかなと思います。
- 恐竜の骨格標本の展示などがあれば、ぜひ見学に行きたいと思います。
- 昔あって、今なくなりつつあるものなど。（生物全般の）
- 小学生から老人まで利用できる、また、くつろぎの場を作って頂けたらと思っています。
- 宣伝や市民参加の出来る環境を作ってほしいと思う。
- 地形の標本、化石発掘。

[M祭]

新県立博物館のパンフレットを観て感じたことをお答えください。

新県立博物館に関して、ご感想、ご意見などありましたらお書きください。

- 休館を閉鎖する前に新館を完成させてほしかった。サンショウウオさんは大切にしておいて下さい。
- ハコの必要性を良く考えて下さい。パンフレットもムダでもったいない。
- 期待しています。何度でも行きたくなるような施設にして下さい。
- もっと早く開館してほしいです。
- 展示を中心にすると必ず飽きます。全ての年齢層の楽しめるイベントも難しいと思いますが、愛知や東京を見ると三重には雨天時にも楽しめる所が少ないと思います。ぜひ良い博物館にして下さい！期待しています！
- ふらりと行っていつでも楽しめる博物館、期待しています。
- 駐車場スペースの確保。
- 親子で楽しめる企画なども充実させてほしい。
- 便利が良く、駐車スペースが広くなりそうでぜひ行ってみたいです。
- 利用しやすい、入りやすいP（駐車場）を！
- 今は行きにくいイメージがあるので新しく建つのを楽しみにしています。
- 恐竜展をして下さい。
- 楽しみにしています。

- 本当に必要ですか？
- 子どもが遊びながら学べる場所だと何回も来たいと思う
- 子どもが興味を持つような施設にしてほしい
- 収蔵物を生かしきれぬ展示方法にしてほしい。
- 10年程前にも構想があって頓挫した経緯もあり、今度こそしっかりした施設をきちんと計画的につくってほしい。
- 障がいを持った方にでも気軽に利用できるように。
- 完成まで時間がかかりそうなので、できた所から一部だけでも開館してほしいです。
- 交流創造エリアで昔の土器に触れたり、道具作りなどができればいい。
- 子どもも大人も体験できたり、実験できたりする企画をもっと増やしてほしい。出前授業も楽しみにしていますので、四日市の方もお願いします。
- できるのを楽しみに待っています。
- 近所なので開館を楽しみにしております。
- 障害者に優しい施設を望む。
- 不要。
- 早くできてほしい。
- 新博物館を早く建ててほしい。首を長くして待っています。旧博物館が閉鎖してから残念でなりません。子どもに身近に観察したり、体験できる博物館は必要不可欠です。
- 早く見たいです。建てて下さい。
- ゆったりとした空間をつくってほしいと思います。楽しみにしています。
- 何度行っても楽しめる博物館を期待しています。
- 完成を楽しみにしています！！
- 子どもを連れて行くのを楽しみにしています。
- 文学館もできるといいですね。
- 琵琶湖博物館のように充実した博物館になることを願っています。
- 行きやすいような工夫をしてほしい。
- バリアフリートイレの充実。
- 気軽に入れる場所にして下さい。
- 駐車場スペースの確保。
- 早く造ってほしい。スタッフの充実、増員を望む。
- 頑張ってください。
- 駐車場、交通機関の充実、分かりやすい表示、学校への出張授業など、身近に交流できる活動を期待しています。
- 早く開館してほしいです。

[移動展示 鈴鹿会場]

新県立博物館のパンフレットを観て感じたことをお答えください。

新県立博物館に関して、ご感想、ご意見などありましたらお書きください。

- 楽しみにしています。
- 出前をきっかけに子どもたちに博物館に来て欲しい。
- 今後も子どもたちの為に頑張ってください。
- どんな博物館になるか楽しみです。期待しています。
- 誰もが楽しめる博物館にしてほしい。
- 自然関係を充実して下さい！
- 夏休みの宿題に参考になるような行事を夏休み期間内になるべく多数参加できるような体験ができるよう企画してほしい。
- 箱物を作る必要があるのかどうか？

- できるのが楽しみです。
- オープンしたら行きたいです。
- 新博物館を楽しみにしています。
- 教育委員会や他の博物館と連携しての特別展の開催に期待します。
- 行くから待っててネ。
- 三重ならではの資料、情報。全国からでも参観したいような博物館にして下さい。
- 特に子どもたちが調べものの時に、気軽に「博物館に行って調べよう」と出かけられるようになればいいと思う。
- 国立博物館のようなたくさんの展示物を置いていただき、大人も小人も一日楽しめる施設にしていただければ有難いです。
- もっといっぱい展示してほしい。
- 新しい博物館が楽しみです。博物館裏ツアーとかあったら、一度行きたい。
- 市民の意見を取り入れて、毎年更新して新しい情報の場としてほしい。
- 自然を大切に作る気持ちが育まれるような博物館になったら嬉しいです。
- 施設だけでなく、市民やNPOなども交えた管理・運営をどうするかをしっかりと考えるべきだと思う。他の博物館の事例などを参考にし、ソフト面のシステム構築と市民活動や協働の専門家と連携を図っていく必要がある。
- 少しでも子どもたちに色々な興味を持ってもらいたいので(ついでに)パーベキューなどができる場所などがあれば、親子でゆっくり博物館を楽しめそうです。/動物とのふれあいも出来れば嬉しいです。"
- 旧博物館は行ったことないが、新博物館は行ってみたい。
- 楽しみです。
- 期待します。
- 子どもが興味を持っていきたい!と思うような展示や企画が沢山あればよいと思います。体験ができるワークショップや観察会も参加したいです。
- 津駅から総合文化センターまでの交通の便が良くない。自動車でもなくても行きやすくしてほしい。
- 新博物館はとても楽しみにしています。子どもが1歳になるので5年後はぜひ勉強と遊びに行きたいと思います。
- 子どもたちが何回でも行きやすいように入場料はなるべく安くして下さい。(大宮の?大台?)昆虫館のように生きた生き物が見ることができるといいです。
- 場所が遠い。
- 駐車スペースが特定の人々の駐車場にならないよう。
- 5年後とのことで大変楽しみにしております。
- 新しい博物館のスタートを機に、多くの大人たちが自然への興味、関心と理解を深めていってほしいと切に願います。今後は注目させて頂きます。がんばって下さい。今日はありがとうございました。
- できるのを楽しみにしています。
- 新県立博物館を楽しく分かり易いようにしてほしい。
- 完成楽しみにしています。
- いろんな自然が分かって嬉しい。
- いろんな自然があって、歴史も分かりやすい。
- またやってほしいです。
- 5年後の建て直したと、丁度上の子が6年生か中学入学になります。博物館を利用するのに適した年齢となるので、展示ルームのみにならないよう、色々なものに新たな興味の持てる博物館になってほしいと思います。
- 博物館が新しくなったらぜひ行ってみたい。
- これからの活動に期待しています。
- 一度も博物館に行ったことがないので魅力的なPRをしてほしい。
- 入りやすい博物館にほしい
- トリケラトプスの骨(レプリカ)をまた展示して下さい。
- 出来たら行ってみたいです。
- 出来たら行きたいです。
- 学芸員を増やしてほしい。
- 福井県のマンモス展示場のようなリモコンで動く展示物があれば。
- 中学生が自由に無料で入れるようにしてほしい(子どもの意見) /生きた虫や植物を手で触れるイベントを計画してほしい(小4)

- 何度でも足を運びたいような魅力的な博物館にしてほしい。福井の恐竜博物館はとても素晴らしく、遠方でも3回行きました。
- 収蔵スペースをたくさん取って下さい。
- 僕の実家が田舎なので猪や鹿、キツネを見たことがあります。とてもきれいに作ってあるのでびっくりしました。とても楽しかったです。
- 子どもが小学生なので今後いっぱい活用できる素敵な博物館にして下さい。
- 特別企画の実施。
- 三重で見つかった化石を沢山展示してほしい(特に恐竜)
- 早くできないか楽しみにしていました。
- 市町村の博物館や民俗館、まちかど博物館と相互協力できれば、楽しい企画が出来るのではないかな。
- 子どもが興味を持って楽しく学習できる場にしてほしい。また、出前などで機会をつくって、自然を大事に出来る、興味を持てる子が1人でも増えれば・・・と思います。
- 大変充実した展示で感激しました。またこんな機会を願っています。夏休み、名古屋水族館へ子どもたちと共に行き、その後にこの機会を得たことを嬉しく存じます。
- 釣りができるようにしてほしい。
- 三重のみでなく、日本列島の(地球全体を含む)成り立ちから三重の位置付けが分かるように。/タイムリーな特別展を開催して下さい。
- 恐竜の展示、博物館が是非ほしい。
- 新県立博物館楽しみに待ってます！
- 三重県内のことであればもっと鈴鹿山脈にしる、北勢地方のことに興味を持っていただきたい。
- おもしろかったしすごかった。

県政一口提案意見一覧

番号	概要	住所 性別 年代
1	<p>孫が化石・恐竜が好きで、本を読んでいたら「恐竜に出会える博物館として三重県立博物館と書いてあるから連れて行って」と言い、以前訪れたことがあります。まだその頃は開館していたので見せることができましたが、もう少し時機がずれていたら孫の要望に答えることができませんでした。せっかくの財産があるにも拘らず見ることができないのは一県民として非常に残念に思います。</p> <p>これからの子供達の為にも、新しい博物館の完成を心待ちにしております。</p>	津市 女性 70代以上
2	<p>フィールドワークに出かけた際、植物学や昆虫学の先生に地域の植物や生物について教えていただき、「知る喜び」は生活に楽しみをもたらしています。今後もぜひフィールドワークを続けていただき、博物館として県内の情報を集約し、データを蓄積して発信していく場になることを期待しています。</p> <p>先日、学習会「物に触れるように見る」に参加しましたが、新品種のサツマイモを見た時、学習会で学んだことが生きて意見をまとめることが出来ました。参加して大変良かったです。</p>	津市 女性 40代
3	<p>早く博物館を作ってください。楽しく遊べて、勉強できる場所を作ってください。特に化石のコーナーを大きく作ってください。</p>	津市 男性 10代
4	<p>新博物館を早く建設してください。博物館の建設は未来への投資であり、無駄な公共工事と同じ扱いにされるものではありません。</p> <p>現在、人間活動が行き過ぎ、自然が大きく損なわれ、地球規模への問題になっています。人間が、自然のしくみについての正しい理解をしておれば、このようなことにはならなかったでしょう。「博物館」は自然と人間の付き合い方を学ぶ場所です。子どもや大人の環境教育の拠点として新博物館は絶対必要です。</p>	松阪市 女性 50代
5	<p>新博物館建設について、以前より希望していたものが現実になり期待を持って楽しみにしております。何よりも早期の建築と開館を熱望します。</p> <p>今の博物館のない状態が続けば、現在小学生の子どもたちは、貴重な子ども時代に一度も地元の博物館に触れることなく過ごすことになってしまいます。それは、私たち大人の怠慢だと思います。今の子どもたち、又未来の子どもたちのためにこの計画を進めていただきたいと思います。</p> <p>今、子どもとともに博物館のサポートスタッフに参加しいろいろな立場、年代の方と一緒にさせていただいております。</p> <p>皆様、専門知識が豊富で意欲のある方ばかりです。ハードの面もちろん大切ですが、ソフト面として、この方々が、新博物館を盛り上げる、そんな場所を用意していただければと思います。</p> <p>国立科学博物館に行ったとき、ボランティアの年配の方々がそれぞれテーマごとに分けられ箱に入った標本を手に直接子どもたちに説明をされ、子どもが熱心に聞き入っていました。又、ある部屋では、化石発掘の紙芝居と恐竜折り紙を教えていただきました。博物館が世代間を超えての交流の場になればと思います。</p>	津市 女性 40代
6	<p>博物館と聞いてまず思い浮かぶのは、しーんとしてあまり人のいない一度訪ねたら当分は行こうと思わない空間です。そんな物しか出来ないのなら大金を使って建てる必要はありません。ヨーロッパなどでは、ミューゼで先生に引率された少人数の子ども達が床にべったり座って学芸員の話に熱心に耳を傾けている姿をよく目にしますが、未来を背負う子ども達、幼児から大学生、ひいては一般県民すべての学習をサポートする場所として、いつも子ども達であふれているような所となるなら大歓迎です。しかし、それは博物館のみで実現可能ではありません。教育委員会が教育のあり方を根本的に見直す決心があって、初めて実現出来る物ではないでしょうか。</p>	津市 女性 60代

番号	概要	住所 性別 年代
7	<p>三重の魅力がまず一望でき、県外からのお客様を必ずお連れしたい場所としての博物館「美し国もてなしの館」「美し国遊学館」があればよいのにと痛感します。</p> <p>新博物館は、すべての世代が楽しく知的に遊び学べる空間となることを願います。県の歴史、食、暮らし、祭り、文学、伝統技能継承などの観光案内機能、Iターン、Uターン推進も念頭においた産業紹介機能を合わせ持つことで、地産地消、スローライフ、エコツーリズムなどの方向性ともあいまって町おこしに繋がっていくのではないのでしょうか。</p> <p>運営については、在住・在勤者による公募モニター制度も取り入れ、新発想・想像力ある学生や若者、ニーズがよく見える子育て世代、余力ある団塊世代、経験豊かな高年世代、それぞれの力を集めて、博物館は文化遺産・地域資源の保全管理を旨としつつ、ふるさとを元気に朗らかにする希望の種をまきつづけるプロデューサー・コーディネーターであってほしいと願います。宝物を守りながら進化していく三重の新博物館です。</p> <p>「元気になる時は博物館に行こう!」と言える博物館がカッコいいと思います。</p>	松阪市 女性 60代
8	<p>博物館の閉鎖期間が長くなると、博物館を知らずに三重の子どもたちは、子ども時代を終えてしまいます。子ども時代の経験は、その子が親になったときに、自分の子どもに伝えたいと思います。早く新博物館を作っていただきたいです。</p> <p>核となる新博物館の施設と、そこにつながる地域ボランティアの育成を望みます。</p> <p>また、運営等については、リピーターを増やすために、保護者が足を運びたいような仕掛けが必要だと思えます。小学校低学年から中学生のお母さんたち、小さなお子さんづれママやおしゃべりに集まる主婦層に人気があるイベントを開くことです。フリーマーケットのような、お金をかけずに家族が集まるイベントも開くことです。</p> <p>さらに、夏休みの半日イベントとして、子ども会や学童保育対象に、予約制で雨天でも参加できる講座があるといいと思います。</p> <p>市外の団体を対象に、送迎バスなど、交通費の軽減が出来ると地域差がなくなると思えます。市内周遊バスの夏休みの運行は出来ないでしょうか。</p>	不明 女性 不明
9	<p>三度目も駄目になったなんて、言わないでください。県民が世界に誇れる博物館を作ってください。財政難だからこそ、素晴らしい頭脳を使って、お金を集めることを考えてください。他所の博物館を見に行かなくてもいいようにしてください。</p>	不明 女性 不明
10	<p>新県立博物館では、インターネットを用いた情報提供にも力を入れて欲しいです。例えば、展示品・所蔵品のデータベース化による公開、県内の歴史・文化・自然等の詳細な紹介などです。</p> <p>また、県民の問合わせにも対応できる仕組みを考えて欲しいです。例えば、自分が見つけたもの、調べたいものへの回答や専門家の紹介などです。</p>	伊勢市 男性 40代
11	<p>私は、第一期分の整備事業費である120億円は高いと思います。設計費、工事費、用地取得費、その他経費を等分に2割減すれば、96億円になり妥当額になります。緑のある駐車場は、完成モデル絵を見るとスペースが狭いように見えますが、県総合文化センターの駐車場と共用したらよいと思います。</p>	松阪市 男性 不明
12	<p>知的拠点の一翼を担う博物館は、県民の知的財産であり、三重県を活性化させるための機関として必要にして欠くことのできないものです。</p> <p>博物館は教育的施設として、展示施設として、利用する県民主体にあることは言うまでもありません。利用者が実際「ほんもの」に接し体験しながら感動し、興味をもって調べたりする姿勢を学ぶ場でもあると思います。また、子どもたちにとっては、学校の教育現場にない自然、歴史、生活文化などについて「ほんもの」を学び体験する教育資源でもあります。一方で貴重な資料の保全や自然、歴史、生活文化に関する専門的機関としての機能は、三重県の活性化とアイデンティティの創出につながります。</p> <p>県民が三重県固有の自然や歴史、生活文化などの理解を通して、一体感や共通意識を得ることができる機関としての存在となり、これらは県民の参画や協力により博物館活動を核とした地域コミュニティ - が再生できます。また、三重県の知的拠点として関連施設との連携協力による生涯学習や文化活動の展開もできます。</p> <p>新県立博物館はその機能を活かし中核として、県内各地域社会の活性化に重要な施設です。</p>	津市 男性 70代以上

番号	概要	住所 性別 年代
13	<p>新博物館に期待しています。みんなでつくと書かれていますが、まさにその通りです。施設での展示だけでなく、活動する博物館を造ってください。</p> <p>そのためには、県内各地域の団体、施設との連携が必要です。</p> <p>県の文化力が試されています。経済対策も大切ですが、将来を担う人づくりへの投資を選ぶべきです。</p>	尾鷲市 男性 60代
14	<p>私は子ども達のためにも、博物館建設を切望しております。三重県は、歴史・文化あふれる地であり、博物館はそれらを学ぶ大切な施設であります。箱物としてアニメの殿堂等と同じ扱いをするのはおかしいと思います。雇用問題等も大切ですが、小学生学力テスト全国ワースト3の現状も大きな課題です。造ることが目的ではなく、その先の活用が大切です。箱物と考えず、それを生かすソフト面をクローズアップし、新博物館建設をよろしくお願いいたします。</p>	亀山市 女性 40代
15	<p>私が県立博物館を初めて訪れたのは、小学校1年生のときの『アホドリ』の展示だったと記憶しています。そして親となり子どもが幼稚園に入ったころ、初めて連れて行きました。息子は展示室の薄暗さにちょっと戸惑っていましたが、ここの博物館では遠くから展示物を眺めるだけでは無く実際に触れることができるものも多く、剥製の動物を家で飼っている犬と同じように思ったようで「かわいい」と楽しそうになでていたのがとても印象的でした。</p> <p>それから、バリアフリー工事に伴い展示室も明るくなり、企画が新しくなる度、足を運ぶようになりました。</p> <p>芸濃での移動展では、普段見たことの無い大きな展示物や貴重な展示物があり、『これほどまですごい収蔵物がたくさんあるのならこんな風に常設展示されていればどんなに良いのだろう』と思っていました。それが間もなく実現されそうで心待ちにしています。あのような展示を見た子供たちは「また見たい」と思うでしょう。</p> <p>今のように身近に行ける博物館がない状態では、子供達は博物館というものを知らずに育ってしまいます。新博物館の開館を楽しみにしております。</p>	津市 女性 40代
16	<p>僕等は、博物館が大好きで、今無くてとても寂しいです。それに、三重県立博物館はとても貴重な収蔵物を持っているので、もっと毎回見せてほしいです。新県立博物館を建ててほしいです。</p>	津市 男性 10代
17	<p>新博物館には、アーカイブ機能(記録資料などの保存)はもとより、セミナールーム等を充実させ、体験学習教室の開催や県内外の専門家を招聘しての講演会等の開催を期待します。特に、学校は週休二日制であることから、週末の課外授業的な催しで子どもたちに本物に触れる機会を提供してください。</p> <p>新博物館には、大いに期待しています。</p>	津市 男性 40代
18	<p>歴史と自然豊かな三重県に相応しい、立派な博物館が建設されることを、強く希望します。経済的に苦しい時だからこそ、地域を知り、文化を育て、誇りを持って生きていくための施設が必要です。私たちは、衣食住と医療さえあれば良いではありません。心豊かな生活を送る権利を持っています。博物館建設を、ダムや道・橋と同列に論じないで頂きたいと思います。</p> <p>新しい博物館は、文化財の保全や展示機能はもちろんですが、情報をきちんと発信して地域文化の核になる施設であって欲しいと思います。そのためには、文化活動の中心になりうる「人」の配置が不可欠です。教員職の定期異動などで博物館職員を廻すようなことがあってはなりません。高い専門性を持ち、企画力にあふれ、「継続的」な活動ができる学芸員を、できるだけ多く置いて下さい。それが、三重の「文化力」を高めることになると思います。</p>	津市 男性 40代

番号	概要	住所 性別 年代
19	<p>県内には数多くの、また唯一無二の文化・自然資源がありますが、その保存や研究、情報発信、活用は極めて不十分です。</p> <p>県に関わる文化・自然資源は、それらを地域の営みや産業などと関連付け、これからの地域をつくっていくための資産として、積極的に活用していくべきものです。</p> <p>即ち、博物館が文化・自然資源の掘り起こし、評価、保存、情報発信を大学などの学術機関と連携して行い、この文化・自然資源を素材として、地域の様々な方々が地域づくりに参画していくあり方が、今後の三重をつくるためには求められると思います。</p> <p>このような意味で、新博物館は保存や社会教育といった、伝統的な博物館像に留まるものではなく、地域を考える時に必要となる情報を蓄積、提供するとともに、地域づくりの拠り所になるべきものです。</p> <p>以上のことから、新博物館の整備は是非とも進めるべきであり、また、先延ばしにして良いものではないと考えます。</p>	津市 男性 50代
20	<p>近年古萬古の窯跡や有節萬古の窯跡が新しく発見されました。その紹介(発掘品と写真パネル等を使用した展示)のためにも、萬古焼のコーナーを設けてください。</p> <p>また、萬古焼の歴史の流れを再考して頂き、古萬古(沼波弄山)有節萬古、桑名萬古、射和萬古、四日市萬古等の県内の萬古焼の作品展示及びパネル紹介をしてください。さらに、田島萬古(福島)、二本松萬古(福島)のように県外で今も萬古焼として作品を作っている所の作品とパネル展示の紹介があってもいいと思います。</p>	不明 男性 不明
21	<p>自然の美しいところ、豊かなところだけを展示するのではなく、傷ついてしまったところについても積極的に展示すべきだと思います。「感じる展示」で映像を用いて行うのが、よいように思います。文章や写真で見るより一歩深い気づきをもたらされると思います。その後、それをフォローするように、より詳しく説明する展示をすることで、より詳しく知りたいという興味にこたえられます。この気づきはやくもたらされることは重要であり、博物館建設を遅らせるべきではない根拠とならないかとも考えます。</p> <p>また、ここ数十年で、どのように開発が進んでいったかを時系列的に航空写真でみせるような展示もあるとうれしく思います。このとき、県民のだれもが、自分がいま住んでいる場所の変遷をみることができるようになることが大事だと思います。</p> <p>これらに限らず、我々が生き物と自然環境に与えてきた影響を印象的に実感させる展示があることが望ましいと考えます。</p>	津市 男性 50代
22	<p>新県立博物館の設立は、三重県の文化向上のため、絶対必要なものと考えております。最近この新博物館設立に対し、反対勢力があると聞きました。私は新博物館を無駄だとは思いません。三重県の文化水準を上げるために必ず予定どおり設立してください。そして、あらゆる文化施設のお手本になるような博物館であることを望みます。</p> <p>また、一部の人からは、設立後直ぐにNPO法人に丸投げされるという話も流れています。そうなれば結局そのNPO法人を主導する人たちに私物化されてしまいます。それ故、あくまで三重県の直営でお願いします。</p>	松阪市 男性 50代
23	<p>三重県には素晴らしい自然や歴史文化があります。しかし、それらを統合して、県内外の人たちに訴える場所がありません。「三重を知る」施設として、歴史や自然の資料を未来に引き継ぐ施設として、是非、博物館の建設を進めていただきたいと思います。</p> <p>特に、県内の資料が流出している現状があり、保存機能を重視した施設、手立てをとって欲しいと思います。今、やらなければ、資料が残らなくなります。是非推進してください。</p>	津市 男性 60代

番号	概要	住所 性別 年代
24	<p>使いやすく、楽しい博物館となるため、家族連れが2時間程度は遊べる通年のイベントの企画や子ども時代に何度か来て、大人になったあと、自分の子どもや孫を連れてきたときに懐かしさを感じれる、ロングランのイベントが必要だと思います。</p> <p>また、博物館活動や運営について、サポートスタッフの専門性を生かして、子どもが楽しめるテンポの良い企画や、大人がじっくりと学べる企画、地域に出向いての行事などを期待します。</p> <p>図書館が新しくなったとき、ボランティアの読み聞かせグループが集まってきて、いまでは各図書館や小学校などに、母親の読み聞かせボランティアが誕生しています。博物館も、同じように、博物館を拠点にしたボランティアから、地域のグループが生まれたら、細長い三重県であっても、マンパワーで、遠くの子どもたちにも、博物館の楽しさを届けられるのではないかと思います。</p> <p>博物館が閉鎖されてから産まれた子どもたちは、三重の博物館を知らずに育っています。空白期間が長くないうちに、早く博物館が出来てほしいと思います。</p>	津市 女性 不明
25	<p>新博物館の完成を長年待ち続けています。特に、標本を管理していただく部屋と人員(学芸員)の充実をお願いします。</p> <p>また、県内の自然の調査・研究を私たち県民と共にやっていただけるスタッフの充実とその拠点となる新博物館の完成をずっと待っています。</p> <p>ともかく、学芸員の充実した建物を造ってください。</p>	松阪市 男性 70代以上
26	<p>昨今の世情をうけ、新県立博物館の建設について、反対意見も出ていることと存じます。しかし、一県民として新県立博物館はどのような逆風にあっても是非建設していただきたいと思っています。</p> <p>県の豊かな自然・文化・歴史は他県に誇れるものであるにもかかわらず、現在の県立博物館は、他県とくらべると大変見劣りするものです。県として、次世代へ引き継いでいかななくてはならないものを守るために、十分な保存機能を備え、情報発信をすることができる専門職員を置いた博物館を造るべきです。</p> <p>今挫折したら、次の機会まであと何年、何十年待たねばならないのでしょうか。折角、建設が軌道に乗り出したのだから、是非、やり遂げていただきたいと心より願っています。</p>	不明 女性 20代
27	<p>文化を次世代に引き継ぐために、保存機能の充実を図り、情報発信のためにも専門職員の配置をお願いします。</p>	津市 男性 50代
28	<p>新県立博物館建設事業に対して、税収の落ち込みを理由に建設に否定的な意見を述べる諸氏が存在しているようです。そもそも博物館は未来の三重県を担う子供達が、三重県の歴史と文化に触れ合う場であり、大人にとっては物足りなさを感じるからと言って、お金がないので駄目とか、大人気ないとの思いはないのでしょうか。自信を持って事業を推進して下さい。</p>	津市 男性 不明
29	<p>地域資源を生かした町の活性化に取り組んでいます。</p> <p>東紀州は残していきたい貴重な資源、文化がたくさんあります。私たちの取り組みへの博物館としての支援を大いに期待するところです。</p> <p>三重県の『ステキ』や『奥深さ』をいっぱい発信できる拠点となり、何度も足を運びたい博物館になればと思います。</p>	不明 女性 40代

番号	概要	住所 性別 年代
30	<p>・閉館された博物館は、地方都市の中では全国でも1、2を争う伝統をもつそうですが、その伝統を新しい博物館にも引き継がれることができれば、博物館の歴史が継承されていく印象を与えてくれると思います。現在の博物館の外観の一部を移築、ないしは新博物館の建物の一部として利用することはできないでしょうか。</p> <p>・最近の博物館では、収蔵品のデータライブラリーを積極的に活用したのも多く、テーマごとに物語的に展開するなど興味を起こさせる見せ方が重要です。建物外の世界に発信するもう一つの博物館のかたちを模索してください。</p> <p>・旧博物館ではよく自然観察会のような企画があり、「博物館の××コーナーに展示してあります。」というものが印象に残り、博物館に足を運んだこともありました。博物館の存在を思い起こすきっかけになるように思います。</p> <p>・新博物館の目玉、テーマは何なんでしょうか。このままでは、外観、内装だけの収蔵物が雑然と並ぶ収蔵庫に終わってしまう気がします。</p> <p>・バリアフリーはそれなりに考えていると思いますが、総合文化センターとの連絡通路（雨風に関係なく安全に通行できる仕組み）が必要だと思います。</p>	不明 男性 不明
31	<p>県外の博物館（例えば琵琶湖博物館）で研修をするごとに、三重県がそういった施設にお金をかけていないことを非常に残念に思います。</p> <p>三重県立博物館も沢山の資料をお持ちだと思います。予算もあると思いますが、展示スペースが無いから展示されていないのだと思います。私も以前、博物館へ資料を寄附させていただいたのですが、その後、見たことがありません。まさか処分されたということではないと思います。</p> <p>現物を見て調べて学習をさせようと思うと、県外へ行かなければなりません。</p> <p>色々な発信、学習ができる博物館を是非ともお願いします。教育には、お金も必要です。環境教育の充実は、絶対に必要です。町づくりは、人づくりからです。</p> <p>本物に優る学習教材はありません。小規模な物では広がりません。広いスペースを持つ博物館はできないのですか。絶対に必要だと思います。</p>	津市 男性 50代
32	<p>新博物館の建設は本当に必要なのでしょうか。</p> <p>政権が代わり、コンクリート（箱物）から人間へと政治の方針が変わろうとしている時に博物館のような大きな建物をつくることにどのような意義があるのでしょうか。ほかに緊急性を要することがいろいろあると思います。それらを差し置いてでも博物館を作らなければならない理由があるのでしたら、教えてください。</p>	津市 男性 不明
33	<p>海遊館を訪れた時、入り口でクイズ用紙と鉛筆をもらって、見学しながらクイズの答えを探して、子供がとても楽しそうでした。新博物館でも展示されている物の中から答えを探して、楽しく学べるようにしてみてもどうでしょうか。</p> <p>琵琶湖博物館のディスカバリールームもおもしろくて、子供は帰りたがりませんでした。新博物館期待しています。</p>	不明 女性 30代
34	<p>新博物館をつくるにあたって、利益を重視し継続できる博物館にしてほしいです。</p> <p>従来の博物館では、観るだけにとどまってしまう、全国的にみても来場者が落ちていきます。来る人に魅力のある博物館にしてください。例えば、体験型博物館や意見をかわせる博物館などを展開させてほしいと思います。</p>	松阪市 女性 30代
35	<p>新博物館を運営するにあたって、最も重視してほしいところは、客層です。現在、三重県では家族で行けるスポットが限りなく少なくなっています。家族一緒に休日にでも遊び感覚で行ける場所が必要です。それにより、三重県でもみんなが楽しめる場所ができあがると思います。</p>	不明 男性 30代
36	<p>新博物館には、喫茶店を入れてほしいです。談話のできる場所があれば、地域のみなさんも利用しやすいと思います。</p>	熊野市 女性 20代
37	<p>この新博物館をつくることに、反対です。このような施設ができたところで、利用者が増えるのでしょうか。年々、少子高齢化が進み、医療もままならず、雇用対策もしっかりしていない状況で、このような博物館に予算を使うことは、適切でないように思います。博物館を作ることよりも、最も県民の人々が安心して暮らせるシステムを作ることが重要だと思います。</p>	桑名市 男性 20代

番号	概要	住所 性別 年代
38	博物館は税金の無駄使いだと思います。 そこに税金を使うなら、もっと子どもや老人に使うべきです。	名張市 男性 30代
39	津市内に文化会館やイベント等があっても、伊賀市からはほとんど行くことがありません。三重県の地形から考えると無理かも知れませんが、もっと「行きたい」と思える場所、内容づくりを目指してほしいと考えます。	伊賀市 男性 50代
40	自然系(動物、植物、他)の標本の集積を積極的に行っていただきたいです。 博物館はミュージアムだけではありません。研究機関であることも忘れないでほしいです。毎年1回は博物館の紀要が発行できる態勢を整えてください。期待しております。	津市 男性 50代
41	新県立博物館については、私たちのためになる事がまずどのくらいあるのですか。また、施設の管理費等を考えると、地方の医療整備を優先すべきだと考えます。建物は後々管理費がかさみますので、これ以上必要ないと考えます。 少子高齢化が進む医療施設を先に考えてほしいです。	大紀町 男性 60代
42	私は、退職後に大学の通信制で文化財歴史学科で学んでいます。そこで博物館学を履修しています。博物館が好きで、よく大阪や京都などの博物館に行ったりしています。生徒の中には、地元の博物館などでボランティアガイドをしている人も多く、兵庫県考古博物館、琵琶湖博物館など、学友に案内してもらったりしました。みんな立派な博物館で、様々なイベントや講座などが開催され、博物館がその地方の文化の中心になっていることを実感しました。 それに比べて三重県の県立博物館は貧弱だと思っていましたが、ようやく新博物館建設に向けて動き始めたことをたいへんうれしく思っています。これからの未来をつくる子供たちの学習の拠点として、また高齢社会で生涯学習の拠点として、ぜひ新博物館の建設を促進してほしいと思います。他県のいろいろな博物館の講座や講演会などでも参加者が増えてきています。また、熱心な高齢者の参加も本当に多いです。ニーズは確実に増えています。自然科学系でも子供たちの参加が増えてきていると聞いています。 三重県の文化を守り、発展させていくためにも是非新博物館を完成させてください。	不明 男性 不明
43	新博物館の概略設計を拝見しました。久しく待ち望んだ新博物館の開館が2014年度を目途に準備されていることに期待しております。 従来の「見せる博物館」から「見て、触れて、参加して、体験して、調査研究して保存して、互いに学びあう博物館へ」と大きく変貌していることが理解できました。 成長の見込めない不安定な社会、経済状況が続き、少子高齢化が進んで益々将来の不安が増す世情ですが、そんな社会であるからこそ、文化、教育に力を注ぐべきで県民の「心豊かな憩い」の場を与える「場所」「スペース」が新博物館を含めたゾーンに期待されます。 新博物館開館を機会にライフワークバランスのライフ生活を更に充実させ、子供の頃からの「夢」を新博物館「交流創造エリア」で実現できると期待しております。 博物館のノウハウ(収蔵物・知識等)を活用し自発的な調査研究活動を通して三重の貴重な自然・文化資産を守ることが出来ると楽しみです。 確実な早期開館を強く希望します。	津市 男性 不明
44	総合文化センター付近に住んでいる者ですが、今回新博物館が近くに移転する事に決まり、期待に胸ふくらませております。 住民説明会でも提案しましたが、竹林が出入自由の交流広場になるとの事にとっても喜んでおりますが、この竹林を全て伐採するのではなく、せめて一角を残し、そこでは竹を使った物(おもちゃ・竹炭作り等)を利用するという形で残せないですか。勿論、「竹」の繁殖力など課題は多いですが、そこを何とかできないでしょうか。 そしてもうひとつの提案は、博物館活動や運営に携わっていく段階でモニターなどを住民から募集して計画を進めていくようにしてはいかがでしょうか。私もぜひ応募したいと考えております。	津市 女性 70代以上

番号	概要	住所 性別 年代
45	民意はコンクリートから人への政策へと移行しました。 不景気で見通しが立たず1兆円にも及ぶ負債があるなか、もっと慎重にこの事業を考 えるべきではないでしょうか。	桑名市 男性 60代
46	数年前、県立博物館を訪れた時、あまりにも古く貧弱な建物に驚きました。 素晴らしい三重の自然と歴史、文化に関する保全伝承を後世に伝えるためにも充実 した新博物館が必要です。 施設の概略設計を県政だより9月号で見ました。設計どおりの素晴らしい新博物館が できることを切望し、期待しています。	熊野市 男性 60代
47	民主党の県出身国会議員先生方が「この時勢に博物館を作る必要があるのか」とい う意見の記事を読んで、「これは今までの経緯が説明されていないのでは」と感しまし た。私達は4～5年先には、やっと新しい博物館が出来るとして期待しています。 過去に一度計画され、用地や基本設計があったにも関わらず、白紙撤回されてしま いました。その後、現知事が三重県の文化の重要性から新博物館建設を決断され、県議 会でも承認されました。今を含めて、すでにかかなりの予算をつぎ込んでいます。平成19 年10月に、建物の老朽化による耐震基準が満たされないため突然休館になり、それ以 来貴重な二十数万点の展示資料が一度も展示されることも無く眠っています。この現状 をもう一度、国会議員の先生方に知ってもらい新博物館の建設に理解していただくこ とは出来ないのでしょうか。 知事は地域文化の象徴である新博物館建設について、非常に積極的に進めていた だいていると聞いています。私達県民は、応援させていただきます。 県の議会決定事項なので、とにかく早く予定どおりに建設されることを望みます。	津市 男性 不明
48	三重県には、海・山・川と多くの自然が身近にあるのに、それらの情報や知識を得る 場所が不十分だと思います。現在、動植物の標本類や自然環境に関するデータは各専 門家等が保管している状態です。県本来の自然環境を次世代にわたって保全していく ためには過去の標本類や調査データも含め蓄積と集約、分析が重要だと思います。 そして、自然環境に触れる機会の少ない子供たちが、本物の自然に興味を持つよう、 自ら発見する・知る・学ぶことができる施設を期待します。また、伊勢神宮や熊野古道な ど貴重な歴史文化に関する資料等を保全・展示・活用する機能が博物館には必要だと 思います。 あと、ハード面の整備と平行して、自然環境や歴史文化を伝えられる人材や専門家の 育成が重要です。運営に携わる人々が愛着ある博物館という意識を持てる様々な ワークショップ等を通じて、優れた他県のノウハウなども学び、県独自のプログラムを 作ることで「成長する博物館」ができると考えています。 財政的に厳しい時期ですが、質の高い博物館建設に向けて投資することが将来の三 重県にとって必要だと思います。	松阪市 女性 30代
49	報道によると博物館建築見合わせ論が出ているようで不安です。知事の文化力の考 えからも、新博物館は計画通り建築を強く望みます。 特に古文書の集中保存に期待しています。各地に残る貴重な文書は散逸してしまう 恐れが十分です。施設と職員を充実した博物館は、単なる箱物と違います。実現を望 みます。	熊野市 男性 60代
50	必要なものなら造ってください。但し、必要でないものなら造らないでください。箱物も いいですが、お金がないという時ですので、もう一度考えてから動いたらどうですか。	松阪市 男性 50代
51	明日の三重を担う子ども達のために、新博物館の建設は一日も早くお願いします。 苦しい時代に入りましたが、こんな時こそ、三重の人づくりや物づくりのために必要で す。ぜひ、みんなの心が豊かになる博物館をみんなが気軽に行けるスペースのある建 物をお願いします。	津市 男性 60代

番号	概要	住所 性別 年代
52	<p>新博物館の建設について白紙撤回を求める意見もあるようですが、私は、是非とも建設すべきと思います。</p> <p>三重県の自然、文化の豊かさを守り、文化財を後世に伝え、情報を発信していく拠点としての博物館に期待します。</p> <p>公園に行く感覚で博物館へ行って、楽しみながら勉強もできて、癒される空間、博物館が身近になると楽しいと思います。</p> <p>また、今までの博物館にあった資料等がお蔵入りになってしまうのは残念です。</p>	鈴鹿市 女性 50代
53	<p>自然豊かな三重県にとって、博物館は絶対に必要な施設です。箱物といった画一的な見方でその必要性を判断せず、早期の建設を希望します。</p>	伊勢市 男性 不明
54	<p>三重県としては、さまざまな物を後生にきちんと残していく事がとても重大な課題であると思います。こんなご時世ではありますが、しっかりとした県立博物館を作ってほしいと願っています。</p> <p>また、何事も人が重要ですので、しっかりとしたプロフェッショナルな人材配置を望みます。</p>	紀北町 男性 40代
55	<p>新博物館建設については、今の社会情勢を考慮すれば延期すべきだと思います。それが出来ないのであれば、なぜ、今必要なのかもっと県民へ積極的に知らせるべきです。</p> <p>県政だよりで周知しているから県民に周知出来ていると考えるのは危険だと思います。もっといろんな方法で周知すべきです。</p> <p>そこで、県庁や各庁舎のホールに置いてあるテレビを活用して、新博物館に関する情報をビデオで上映したらいかがでしょうか。</p>	津市 男性 40代
56	<p>琵琶湖博物館や21世紀博物館みたいに子供と親(親子学級)と一緒にできる工房(三重の木や、貝殻などを利用した)や陶芸、酒造りの体験、漁師の格好をして漁の真似をしたり、各学校の作品展示スペースを作り、金賞を目指して描いてもらうなど、「みんなでつくり、みんなで楽しむ博物館」が良いと思います。</p> <p>また、カップルの人にも足を運んでもらえるよう、おしゃれな作品や絵画を展示し、「博物館よかったよ」と口コミで広められるような所を期待します。</p>	松阪市 女性 30代
57	<p>職員の趣味、嗜好に偏った運営の施設にならない様にお願いします。</p> <p>また、県民のための施設にするのであれば、営業日は、365日無休にしてください。親の職業により、連れて行ってもらえない子供が出ない様な施設にしてください。</p>	津市 男性 60代
58	<p>聴覚障がい者でも、楽しく勉強できる場であって欲しいと思います。</p> <p>館内に補聴器の補助システム(ループシステム)の設置や赤外線システムの設置、筆談対応が可能な受付、字幕のある解説ビデオ、案内掲示板の設置等をお願いします。</p>	津市 女性 30代
59	<p>新博物館の建設、一日も早い開館を要望します。</p> <p>三重県の風土、文化を現実に見ることができ、それを未来へ伝えていく施設が是非必要だと思います。現在の三重県には、鳥羽の『海の博物館』を除き、ほとんど無いと思います。70歳と67歳の夫婦ですが、平成26年の開館を楽しみにしています。18歳を頭に孫4人にもこの三重の文化を継承するためにも要望します。</p>	津市 男性 70代以上
60	<p>三重県は南北に長い特殊な県です。それぞれの地域の特性を活かした博物館にすべきです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食堂は、それぞれの地域を生かした月替わりの地域の伝統や創造生かした料理の提供をしてください。(北勢、中勢、伊勢志摩、伊賀、東紀州など) 2. 県民が希望が持てる展示場の開設をお願いします。児童や生徒も、大人の個人も展示できる場所を提供してください。(展示料金を取ってもよいのではないですか。) 3. 県内の古墳や出土品を復元できるボランティアが活動できる場所も必要ではないでしょうか。 4. 他県にない博物館を作ってほしい。 	名張市 男性 70代以上

番号	概要	住所 性別 年代
61	<p>現在、県立博物館は閉鎖中です。今年、政権交代し景気も少し持ち直していますが、県内はまだ厳しいようです。県単独事業の「新博物館」建設を進めていますが、今後も頑張って続けて頂けるようお願いいたします。県民は、この厳しい雇用情勢の中で文化の拠点となる県立博物館の開館を待っています。</p> <p>運営について、雇用促進に一部民営を入れてみてはどうですか。つぎに、現在県民の方が県総合文化センターに訪れていますので、「新博物館」の概略設計をより広く知っていただくために、県文化センター入口に掲示してはどうですか。また著名人の講演会等を開催して「新博物館」を県民により広報出来るよう働きかけてください。</p>	津市 男性 60代
62	<p>三重県の博物館は、老築化してあまり機能していませんが、新博物館建築計画は何処まで進んでいるのですか。</p>	不明 男性 不明
63	<p>歴史部門について、次の2点の提案をします。</p> <p>1. 各地の大字(おおあざ)等の自治体が保管している在地古文書を県内すべてに確認し、ボランティアを募ってその目録作りを行い、必要な物はマイクロコピーを撮り、博物館で保管して下さい。 県立博物館で行っているサポート・スタッフの活動を活用・拡大して現地の紹介や目録作りを行って下さい。</p> <p>2. 明治初期に作られた大字別の小字を記した「大字総図」について、市町役場や法務局の協力を得て、ボランティアにより写しを作り全県の「小字地図」を作して下さい。 中世の文書資料は県内でも少数のため、専門家にお任せすればいいと思います。地名資料は、耕地整理や用地造成のため、どんどん原状が失われ、次の世代の人では、全く検討がつかなくなりますので、基礎資料として「県内すべての大字総図」を修正しなければ、中世の勉強は資料不足になってしまうと思います。</p>	多気町 男性 70代以上
64	<p>「美し国おこし・三重」のタイトルになっている「美し国(可怜国)」とは、日本書紀に由来しています。古代から多様性に富む文化を育んできた三重のあり様を蓄え、県民をはじめ、世界に情報を発信できる施設が、新博物館だと思います。豊かな文化を持っている三重県だからこそ必要な施設だと思います。私は、新博物館を箱物として切り捨てようとする姿勢に反対です。</p>	伊勢市 男性 40代
65	<p>子どもたちが活用できるはずの博物館が閉館された状態は悲しいことです。早急に博物館が開館できるようお願いします。</p> <p>滋賀県の琵琶湖博物館を尋ねましたが、体験できるコーナーがたくさんあり、興味深かったです。</p> <p>また、身近な場所で見られるさんちゃん(博物館マスコット・オオサンショウウオ)は、親しみがあり、新博物館でも同様に展示されることを望みます。</p>	津市 男性 70代以上
66	<p>自然、歴史、文化をモジュールして、コンピューターで見るのがいいです。</p>	鈴鹿市 男性 50代
67	<p>新博物館の建設を反対する声もあるようですが、新博物館は、長年の三重県民の願いであり、建設再検討などするべきではありません。促進こそすれ、見直しなどはもってのほかだと思います。</p> <p>あらためて、三重県政はこの県立博物館建設へ、いままでどおり進めていってほしいと思います。</p> <p>もちろん、中身については、自然史部分の扱いが低いことなど不満も残りますが、まずは、建設を進めていく中で解決していってほしいと思っています。</p>	伊勢市 男性 不明
68	<p>新博物館については、斬新で宇宙を思わせる未来型の博物館をイメージしています。地域密着型も大切な要因ですが、世の中は、世界でも通用する建築を求めていると思います。一歩入れば、夢のようと思える空間を期待します。</p>	いなべ市 女性 40代

番号	概要	住所 性別 年代
69	<p>1. モニター制を設けてください。特に、展示については、公開の前にモニタリングを実施してください。展覧会で、展示等の不都合をよく見かけるため、事前に、見学者の観点からチェックをしてください。 私が実際に遭遇した、不都合な例として以下のものがあります。 ・小さな展示物のケースの後ろに映像資料があり、数分の映像資料を観る人が、展示ケースの前で立ち止まり、ケースが見えなかった。 ・キャプション(説明文)が小さい、あるいは見にくい位置にあるため、読む人が、展示物の前に立ったり、照明が不十分で見えにくかった。 ・キャプションと展示物が不一致であったり、文書表現で不正確なものがあった。 ・アンケート用紙を配布しているが、記入する場所がなかった。</p> <p>2. 公共交通機関による来館を促進するために、路線バス・コミュニティバスで来館した場合に入場料の割引制度を設けてください。 他の施設で、バスの中にポスターがあり、降りる時に運転手が「乗車証明書を持っていくと入場料が割引になります」と声をかけながら証明書を渡しているのを見かけました。</p>	桑名市 女性 不明
70	<p>昆虫博物館が来館者の減少で閉鎖されたとのことですが、内容的にも世界に誇れるものであり、展示室も良かったので、新しい博物館に入れたら良いと思います。 また、三重は森林とか自然が豊かであるので、北海道にある雪の結晶室や極寒体験室のように、森林浴など木に関し体感できる部屋を作れば良いと思います。それと、ロボット博物館など未来的なものも作り、子供や高齢者も楽しめるような博物館にしてください。昔の時代のものや現代のものなど両方の良いところを集めたり、外国の方が来てもわかるような、どこにもない楽しい施設を希望します。</p>	名張市 女性 60代
71	<p>現博物館は、何時行ってもほこりが積もった展示物がゴロゴロしているような場所で、年数回何かテーマを決めた催し物をやっていただけるだけで、その間以外は薄暗く汚らしい所で職員は一体何をやっているのですか。 また、中庭のような所は展示らしきサンショウウオが飼われていましたが、それも可愛そうと思われる環境で、現在37才になる私の子どもが小さい頃に連れて行ってもすぐ「帰ろう」と云っていました。そのような施設とならないようお願いします。</p>	津市 女性 不明
72	<p>玄関の近くにお食事所や休憩所及び売店などを作り、その奥に新博物館などの資料展示、人や映像での歴史や文化の紹介をしてください。なお、売店では映像入りのCDの紹介、食事所では歴史文化の当時の食事を再現して販売してください。 特に男女格差雇用の確保を忘れないようにしてください。セキュリティー方面の対策も忘れないようにしてください。</p>	志摩市 男性 40代
73	<p>夏に琵琶湖博物館に行き、あまりに素晴らしいので驚きました。自然、歴史、社会をまとめた総合博物館で半日も自分なりの興味を確かめました。特産物も売ってました。学芸員の方も、気軽に奥から出てきて質問に答えていただき、中学、高校の知識が今の学問から遅れていることも知りました。子ども、大人そして学生も楽しめる博物館を期待しています。</p>	松阪市 男性 60代
74	<p>三重が持つ『多様性の力』をテーマとするならば、土着性が重要です。その拠点となるべきは、絶対に津中心は避けたいものです。例えば、尾鷲、桑名、名張、伊賀あたりでしょうか。 小中学生を含めて利便性にさして問題なきものと思います。</p>	四日市市 男性 60代
75	<p>そこへ行けば三重県独特の歴史、文化、芸術等を特徴的に捉えることの出来るよう視覚的表現も交えて表現する工夫がほしいです。また、運営に関しては、民間人も入れた多様な年齢、職種、経歴の運営委員による自由な発想に裏付けられた運営が望ましいです。</p>	鈴鹿市 男性 70代以上
76	<p>立地は津市内でなくても四日市市内でもよろしいかと思います。利便は駅からシャトルバスを走らせませす。小さくても博物館という県外へも誇れる様なデザイン性の高い建物か、あるいは古風にこだわった建物を希望します。何か話題性のある博物館にすごく期待しています。</p>	四日市市 女性 50代

番号	概要	住所 性別 年代
77	三重県の各市町別に博物館内のレイアウトをして、自然、歴史文化等ジャンル別に分けて展示すれば効果的です。 修学旅行等子どもたちにも、わかり易く、習学向上が図れる博物館を目指してください。 また、博物館の見学料金は、無料開放して、県民の多くに見てもらえるようにしてください。	鈴鹿市 男性 50代
78	関東から三重に越してきた主婦です。 関東に居た頃は三重県の場所さえ知りませんでした。三重に来る事になり、三重の事を調べてると、たくさん名所、名産があるのにびっくりしました。伊勢志摩のカキや真珠、松阪の牛肉、鈴鹿サーキットなど、各地域の名前では全国に知られているのに、それイコール三重というイメージが全国に知られていない事をすごく残念に思いました。 ぜひ、この機会に全国へ三重県としての良い所を発信していただきたい。	鈴鹿市 女性 30代
79	税金の垂れ流しをする建物は一切ありません。もっと安く出来るはずです。	不明 不明 不明
80	今日の食事にも困って税金を納付しているのに、博物館などありません。それより、税金を少なくすることを考えてください。	不明 男性 30代
81	今までこういうもので、何回も行ってみたいと思うところは皆無に等しいので、箱物を造るのはやめて、県内各地の継承すべきものに直接援助し、紹介したほうが良いと思います。 どうしても造ることになったら『継承すべき文化、技術の紹介コーナー』を主体として設け、日替わりは無理としても、月毎あるいは四季、年毎に変えていき、過去に紹介したものは、スクリーンで検索、チェックできるようにすればいいと思います。	四日市市 男性 70代以上
82	新博物館については、全く無駄な箱物工事としか思えません。津市のようなローカル地区に博物館は不要です。見直しを希望します。年間どの程度の入場者を設定しているのですか。四日市市より北の人は名古屋へ出ることが多く、津へはまず出掛けることはないと思います。新博物館の予算は、津駅の高架工事にでも使うべきと考えます。	四日市市 男性 60代
83	県政だより9月号特集は覚えていませんが、大きな建物を建てたり、それを維持していく経費をよく考慮していただきたいです。どこに建つのかも知りませんが、たぶん津市だと思いますが、熊野市に住む者にとっては、行きたいけど大変なのでなかなか利用しにくいです。多くの施設が県の北中部にあります。県の南部にも作って欲しいです。熊野古道で訪れる方も利用しやすいのではないのでしょうか。	熊野市 女性 60代
84	おしゃれで可愛いミュージアムグッズを作ってほしいです。ちよくちよくのぞきに行きたくなるような、すてきな雑貨屋さんみたいなミュージアムショップにしてほしいです。のんびりお茶でもできるカフェもあったら最高です。新博物館ができれば、お散歩コースにしたいと思います。映画みたいなナイトミュージアムツアーなんてあったらわくわくします。	津市 女性 40代
85	学芸員について、それぞれ専門分野の学芸員がその知識・技能が十分に発揮できるように人材登用を期待します。 また、ボランティアの活用について、現役を退いた人たちの知的財産を活用し、来館者に対応できる態勢をつくってください。	津市 男性 不明
86	三重が持つ「多様性の力」がテーマであるなら、それぞれの時代に遺されたものを各家庭から寄贈いただいたら如何でしょうか。例えば、横幅が長い昔のステレオなどは、その時代を物語っています。また、今ではパソコンが中心ですが、少し前の英文タイプライターなど当時の生活史から学ぶことも必要と考えます。旧い屋敷町の名残として古い道具もあることでしょう。それ以外にも、ミニカーから見る玩具の進展も素晴らしいと思います。子供心を揺さぶる玩具は大人も夢中でした。楽しい博物館を期待しています。	鈴鹿市 女性 70代以上

番号	概要	住所 性別 年代
87	三重県の自然は、環境も良く歴史文化遺産風土が最も優れています。これが県の特徴であり、新博物館の基本計画は、使命と役割、活動、施設運営などが重要であり、その中で新博物館はみなさんと共に三重の特色である「多様性」を探求し、古式豊かに生かすことにより、県民に愛着心を持たせるテーマとしともに考え、活動成長する博物館をめざし活動することが必要です。	伊賀市 男性 70代以上
88	九州から関東まで、複数の都道府県に住んでいたことがあります。国立の博物館、美術館、一部の農業博物館を除き、あまり楽しいと思った事がありません。集客数も少なく「箱物」と感じます。県の漠然としたコンセプトの計画には不安を感じます。もっと有効な予算の使い方があるのではないのでしょうか。	四日市市 女性 30代
89	新しい博物館、楽しみにしています。子どもが楽しめるようなキッズスペース、屋外の広場などがあれば嬉しいです。その頃、子どもが小学生になりますので、ぜひ、連れて行きたいです。	松阪市 女性 20代
90	博物館は、そこにあるというだけでなく、学芸員が研究し、地域住民にプレゼントすることが大切と思われます。県中央にある津市に所在するのではなく、可動性のあるものにして、県民の利便性を考慮してほしいです。要するに、遠すぎます。	志摩市 男性 50代
91	年間イベント表を作成し、各部門の専門家の講演会を企画してはどうですか。最近、農作物を荒らす害鳥獣の特徴と対策法など(サル、イノシシ、シカの特性)や県の動植物の分類地図、どこの場所に行けば、こういう動植物が観察できるとかです。	津市 男性 60代
92	新博物館について、税金のむだ使いはしないでください。	不明 不明 不明
93	新博物館は必要なんですか。あるものを使って、という発想はないのですか。時代に逆流していないのですか。いったい、子供達に何を残したいのですか。借金しか残せないような行政なんて、どうしようもない集まりですね。借金残して、何がみんなで楽しむのですか。新博物館建設は、反対です。	朝日町 女性 30代
94	まず、老若男女が気楽に入れ、鑑賞できる場にして下さい。楽しくつろいで見られるようにして下さい。できるだけ心に残る絵とか物が見たいです。	津市 男性 70代以上
95	本当に博物館は必要あるのですか。単に維持費ばかりがかかって赤字が増えるだけとならないですか。今あるものを活用できないのでしょうか。	不明 男性 30代
96	新博物館の活動の一つに「公文書館」機能があります。これを機会に、県民向けに各種レベルの古文書講習会を開催してください。三重県は古文書が多く蓄積されている県だと聞きます。また、読まれずに放置されている古文書も多いようです。県民の古文書解読人口が増えることにより、三重県の歴史への関心が深まり、ひいては未来の県政の改善にむすびつくヒントが得られると思います。「古文書解読先進県」をめざして古文書講習会に取り組んでいただきたいと考えます。	津市 男性 60代
97	ヨーロッパの各都市には、地質博物館があるように感じます。地震大国の日本には、長野県の構造線に小さいものがあるぐらいでしょうか。地上に住む動物としての人間、地下がどうなっているか分かり易いものを作り、子供から大人まで、インプット出来るといいと思います。	津市 男性 60代

番号	概要	住所 性別 年代
98	<p>整備方針に示されている「三重の自然・文化に関する保全、継承し、活用して人づくりや地域づくりに貢献する」ことは重要ですが、従来のような、保全、展示中心ではなく来館者が日々活用し、発展できる場としても機能できるように考えてください。</p> <p>例えば、科学的資料の募集、保全(特に自然環境、動植物の生態変化は早くなり著しいものがある。)や小中学校が活用できる実験工作室、県民の発想が育まれるイベントの企画などです。</p>	<p>不明 男性 70代以上</p>
99	<p>以前から博物館は生物関係が多く、科学技術関係が少なかったように思います。新博物館には、科学関係のコーナーも設けて戴きたいと希望します。三重県は愛知県に比べて『物づくり』の声が小さいように思います。亀山のシャープ液晶工場、ホンダ自動車工場など世界の一流の工場があり、物創りでは決して愛知県に劣っていないと思います。</p> <p>数年前、ミラノのレオナルドダビンチ博物館を見学してきました。ダビンチの発明模型は勿論ですが、科学技術の進歩は現物が並べてあり、日本の8mm映画撮影機も並んでいました。子供を対象とした遊び場にレゴの組み立てが自由に使える一室もありました。</p> <p>「どうしてだろう」、「不思議だな」、「何故だろう」と子供が疑問を持つような博物館になったら素晴らしいなと想像しています。</p>	<p>鈴鹿市 男性 70代以上</p>
100	<p>何代か続いてきた鈴鹿の墨工房が後継者が無く取り壊されると聞きましたが、こういう文化や産業を博物館に残してください。文化や産業というのは、隣接の県とも重要な関係があったと思うので、三重だけでなく他県との係わり合いもわかるような施設になると良いと思います。</p>	<p>不明 男性 不明</p>
101	<p>駅の近くに建設してください。</p>	<p>津市 男性 20代</p>
102	<p>新博物館の計画については、お金がないのですから、質素儉約をしないとイケません。</p>	<p>不明 不明 不明</p>
103	<ol style="list-style-type: none"> 1. 真珠を科学的に取り上げてください。 2. 展示と併せてセミナーを実施してください。 3. 調査、研究(展示に関する)の書籍類の販売と閲覧をしてください。 	<p>伊勢市 男性 70代以上</p>

資料3 県民等からの意見の反映状況（平成21年12月10日現在）

第1章の3で報告したさまざまな機会を通じて県民の皆さんからいただいた意見のうち、主に資料1の「新県立博物館に関するアンケート調査」の自由意見、住民説明会での意見、ユニバーサルデザインの博物館づくりのための意見交換会での意見、関係機関等の会議での意見について、下記のとおり反映状況をまとめました。

最終報告では、大学連携シンポジウムや11月以降に実施したアンケート、県政一口提案、ティーンズプロジェクト、みんなでつくる博物館会議などでの意見などを追加して報告します。

建築に関するもの

主な意見等	修正等を行った点
<p>施設全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい動線計画（特に、スムーズな階の移動ができるように。） ・安全で快適な動線（駅、バス停や県総合文化センターからの安全で快適な動線の確保） 	<p>動線計画を見直し、エレベーターやトイレの位置等を修正しました。引き続き、より安全で快適な動線の確保のための検討と整備を行います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの台数の増設 	<p>外部エレベーターの設置数を1基増やしました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでもわかりやすく使いやすいトイレ 	<p>各階のトイレの場所と配置を基本的に同じにするなど、誰にでも使いやすいトイレにします。引き続き、音声誘導や点字の案内、便器の仕様など、障がい者への配慮のほか、親子連れなど、誰にとっても快適なトイレや授乳室の仕様などについて検討を行います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・公文書館機能を発揮するための必要な整備 	<p>公文書の移管、「歴史的公文書」の選別・受け入れ、閲覧など、公文書館として必要な機能を発揮できるよう施設面としくみなどのソフト面の両面から整備を行っています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・景観に配慮し、県総合文化センターとも調和のとれた、三重県らしい建物 ・県総合文化センターとの連携（動線や施設） 地下通路や連絡橋などの設置 	<p>引き続き、外観の仕様及び県総合文化センターとの安全な動線の確保に向けた連絡橋の設置等について検討を行います。</p>
<p>エントランス、飲食エリア等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁当が食べられるような場所の確保 	<p>団体客用の昼食、ガイダンスの場所として、研修・ガイダンスルームや、ミュージアムフィールドの交流の広場などを想定します。</p>
<p>交流創造エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もがくつろぎ、知的活動ができる空間 ・小学生から老人まで利用できる、くつろぎの場 	<p>くつろぎコーナー、開架書架・情報コーナー、ワークショップコーナーなど、学習交流スペースに求められる諸機能を発揮できる空間となるようなコーナー構成とします。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 公文書館機能を発揮するための必要な整備 	公文書館機能のなかでも「歴史的公文書の利用」のため、資料閲覧室に、歴史的公文書を閲覧するための閲覧室と特別閲覧室を設けます。
<p>収蔵エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 公文書館機能を発揮するための必要な整備 	歴史資料収蔵庫に、歴史的公文書を保存します。
<p>調査研究エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 公文書館機能を発揮するための必要な整備 	調査研究エリアに選別後の歴史的公文書を受け入れるための資料の整理、登録を行うための諸室（公文書等保存処理室、公文書等整理室）を設けます。
<p>管理エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人などのおむつ替えや病気などで疲れやすい人の休憩のための和室仕様の救護室の設置 	救護室は、和室仕様とします。
<p>ミュージアムフィールド</p> <ul style="list-style-type: none"> ミュージアムフィールドの常時開放（住民等の散策、憩いの場所として、常時新博物館の敷地に入れるようにして欲しい。） 	ミュージアムフィールドは、基本的には常時入れるようにし、現在住民にとって通り抜け機能を果たしている通路を散策路として整備します。
<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムフィールド（南側）から館への入り口の設置 	ミュージアムフィールド側にも入り口を設けます。
<ul style="list-style-type: none"> 以前から住民の通路となっている交流のひろばを縦断する道についての確保と照明の設置 	通路と、夜間の照明については、確保するように配慮します。
<ul style="list-style-type: none"> ハイブリッド照明等、環境学習用設備の整備 	ハイブリッド照明等、環境学習も可能な環境配慮型設備を整備します。
<p>外構、駐車場</p> <ul style="list-style-type: none"> 車いす用駐車場の台数の見直し 車いす利用者以外の障がい者にとって使いやすい駐車場の整備 	車いす用駐車場（3.5 m幅） 思いやり駐車場（3 m幅）設置台数等を増やします。
<ul style="list-style-type: none"> 県総合文化センターとあわせた総合的な駐車場確保対策 	引き続き、運用の改善を進めるとともに、駐車場の増設を計画しています。

展示に関するもの

主な意見等	修正等を行った点
<p>展示全体</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい者、聴覚障がい者や高齢者、子どもなど、誰にも展示を楽しめるための配慮や工夫 	誰にもわかりやすい展示解説等のための具体的な方法等について、ソフト的な対応も含め、今後検討を行います。
<ul style="list-style-type: none"> さわれる展示物の充実 五感に訴える展示 	今後、さわれる、五感に訴える展示について検討を進めていきます。

・オオサンショウウオのさんちゃんの鑑賞場所の確保	オオサンショウウオの鑑賞用水槽を来館者に見やすいよう、2階飲食休憩スペースに隣接した場所に設置します。
学芸員など人による説明	人による展示解説などを効果的に行うための検討を行います。
基本展示 ・三重についてのわかりやすく、魅力的な展示	三重の多様な自然と歴史・文化をいくつかの特徴的な主要テーマを設定して表すとともに、感じる展示、参加する展示などの方法で魅力的に展示していくこととしています。
テーマ展示 ・防災や平和などに関する展示	今後の展示計画の中で、テーマ別の展示についても、検討します。
・県民が利用できる展示空間(できれば火や水が使えるような)の整備	交流テーマ展示室1及び2を、県民・利用者の皆さんとの協創展示の場としました。特に、引き続き、交流テーマ展示室1の仕様については、県民・利用者の皆さんが、より自由に展示を行えるような仕様を検討します。
こども体験展示室 ・こどもにとって、おもしろい展示室の整備	こども体験展示室は、ミュージアムフィールドが望める、天井高を生かした開放感のある空間とし、「遊ぶ、楽しむ」を通して博物館の楽しさを知ってもらうことができる展示内容とします。
ミュージアムフィールド ・田んぼの設置 ・三重らしい木や植物の植樹 ・ビオトープの設置	駐車場を含めた屋外エリアの展示の考え方や方法については、引き続き、もともと敷地内にあった自然の再生を行うことを基本に検討します。この検討においては、現在のところ、田んぼやビオトープの設置については行わず、また、三重らしい植樹は、駐車場などで行うことを検討しています。
・ミュージアムフィールドの里山の保全活動や環境学習への利用	ミュージアムフィールドでは、敷地内の自然の再生のための活動を利用者の皆さんと一緒にしたり、環境学習の場となるようなさまざまな工夫を行うこととしています。
・現在繁茂している竹の処分 ・予定地に生えている竹林の活用(管理が大変なのはわかるが、少しでも残せないか。)	竹が、かなり繁茂している状態で、他の樹木等を浸食している状態もあるため、伐採、伐根する方針です。ただし、竹林に隣住民の皆さんが親しみを感じておられることも尊重し、伐採した竹の活用方法を検討するとともに、管理可能な範囲で少しでも残すよう検討を行っています。

博物館活動に関するもの

主な意見等	考え方、反映したこと
<p>学習プログラム、行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の土器に触れたり、道具づくりなど ・子どもも大人も体験できたり、実験できたりする企画 ・体験できる博物館 	<p>さまざまなかたちで、実物を重視しつつ、体験的なワークショップやフィールドワークなどをわくわくドキドキしながら、楽しめるようなものにするよう、試行や検討を行います。</p>
<p>子どもが参加できる催し物 子どもが参加できるスペース・企画をたくさんお願いします。 親子で楽しめる企画なども充実させてほしい。</p>	<p>ワークショップやフィールドワーク、その他の企画にあたっては、こどもや親子づれのためのもの、さまざまな世代が交流できるものなどを想定して検討、実施します。</p>
<p>実物資料を多く見たい。</p>	<p>常設の基本展示室や三重の実物図鑑ルーム、こども展示室において、より多く実物資料を見られるよう、展示替えの周期など工夫をします。 学習交流スペースにおいて、博物館資料に親しむコーナーを設けるなど、より多くの実物資料が展示できるよう検討します。 資料閲覧室を活用すれば、調べたい実物資料を見ることもできます。</p>
<p>恐竜の骨格標本の展示・恐竜展</p>	<p>恐竜をテーマにした展示についても、計画していきたいと考えています。</p>
<p>自然史を中心とした展示 三重県の歴史をトータルして見る展示</p>	<p>三重のことを表す博物館であり、常設の基本展示室では、三重の多様な自然と歴史・文化をテーマを設けながら表します。この基本展示室の導入部において、三重のなりたちから、歴史の動きについてわかりやすく伝えることとしています。 現有資料の構成からみても、自然と歴史を総合的に捉えるのが新県立博物館の考え方であり、自然史を中心にとすることは考えていません。</p>
<p>三重以外のものの特別展示</p>	<p>恐竜展や国宝展などといった全国巡回展を実施するとともに、他県の博物館などと連携した、多様なテーマによる企画テーマ展示についても行うこととしています。</p>

運営に関するもの

主な意見等	考え方、反映したこと
<p>展示全体 遠方の児童の見学者への、交通費一部補助制度の実施</p>	<p>遠方の児童、生徒にとって来やすい環境を整えるよう、今後知恵を出し合い、検討を行います。</p>

宣伝や市民参加の出来る環境整備	今後、一人でも多くの県民の皆さんが、自ら主体的に博物館の活動に参加してもらえるような環境整備を進めます。
身近に交流できる活動	さまざまな人が参加して、日常的に継続した活動を博物館で行えるような取組を進めます。

広報他

主な意見等	考え方、反映したこと
・新博物館が出来ることをもっと宣伝すべき	これまでも県政だよりをはじめ、さまざまな機会や媒体を活用し、新博物館の宣伝を行ってきましたが、より幅広く、県民の皆さんへの周知活動を進めます。

遠隔エリアへの対応

主な意見等	考え方、反映したこと
移動展示を実施して欲しい。	開館前は、移動展示実施のプロセスや成果を館の基本展示等に生かすとともに、開館後も遠隔地の住民に博物館を知っていただく機会としても、移動展示を実施することとしています。
・津から遠いエリアの人々も享受できるファンクション（機能）の整備 ・本館を体験できる移動展示等のシステムづくり ・webなどで情報公開 ・学校や地域の博物館・公民館への出前授業	学校や地域での出前授業、市町や地域の団体とのフィールドワーク、移動展示、webによる情報の双方向の交信など、さまざまに工夫して、遠隔地の人にとっても博物館活動に参加し、活用ができるようしくみづくりや取組を進めていきます。

資料4 連携についての主体別ヒアリング - 結果概要 -

現在、実施中につき、最終報告で記述

資料5 学校教育における博物館等の活用と連携に関する調査 - 結果概要 -

現在、実施中につき、最終報告で記述